

Onmyou Magical Battle Girl じにヤンがやってきました

登場人物

みさと

女子高生。歴女で若干腐りがち

貴之

みさとの伯父。平安時代を研究している准教授。

白の晴明

陰陽師安倍晴明の「人」としての半身。

八葉（やつのは）

白の晴明の式神。

黒の晴明

安倍晴明の「魔」としての半身。

牡丹

晴明の弟子だった少女。黒の晴明につく。

ゆかり

黒の晴明の部下の鬼女

法師

黒の晴明の部下。元陰陽師らしい。

鬼童子

黒の晴明の部下である少年。

傘差（かささし）

黒の晴明の部下の化け狸その一

首吊（くびつり）

黒の晴明の部下の化け狸その二

赤殿中（あかでんちゅう）

黒の晴明の部下の化け狸その三

白徳利（しろどくり）

黒の晴明の部下の化け狸その四

名無

京の郊外に住む謎の女

他 式神数名

白晴明と八葉が駆け込んでくる。

八葉　ダンナ、ここは大丈夫だって言ってたじゃん。どういうこと？

白晴明　どうやらこっちの考えが読まれていたみたいだね。戦力の少ないボクらが彼らに対抗するには、助っ人を呼ぶしかないわけだし呼ぶとなるとそれなりの場所がある。そこを全部見張っていれば、どこか一つにボクらが引っかかるってわけさ。

八葉　そこまでわかってるのにどうしてやるのさ。

白晴明　それでもこの術を完成させないとボくらには勝ち目はないんだ。いいかい八葉、男にはそれでもやらないといけないときがある。それが今さ！

八葉　ダンナ……ってやってる場合じゃないよ。もう外に張った結界も持たないって。

白晴明　仕方ない、ここでやろう。

八葉　ここで？

白晴明　どっちにしても逃げ場はない。ここで呼ぼう、ボクらの救世主を。

パリーンと何か（結界）の割れた音

白晴明　ボクは術に入るから後は頼んだよ。

八葉　頼んだって、俺だけでどうするっての？

白晴明　キミにどうにかできないことが今のボクに出来るとでも？　とにかく任せた！

傘差と首吊が登場

傘差　ハ～イ！

首吊　お待たせ～。残りかすの割りに結構丈夫な結界で苦労しちゃったね。

八葉　疲れたんなら帰ったらどう？

傘差　と言われても、こっちもガキの使いじゃないから、やることやしないとねえ～。

首吊　さあさあ、震えながら命乞いする為の準備はオーケー？

八葉　ダンナ～、向こうやる気十分だよ？

白晴明　弱い相手にはとことん強いタイプだね。さあ、三十秒でいいから時間かせいで。

八葉　……覚悟決めるか。

傘差・首吊対八葉の戦い。

もっぱら白晴明のところまで行かせない為の攻防

白晴明 臨兵闘者皆陣列在前……天地神妙みだれし時、人也しこの身は今求め訴えり、陰陽正すもの、闇を撃ちしもの、魔を祓いし弓に選ばれしものよ……破っつ！

雷鳴と共に弓を持ったみさと登場

みさと え……何これ？ こどここ？

八葉 でた！われらが救世主！……って、なんじゃこりやあああああ？！ ダン大、趣味とかはいんだって！

白晴明 趣味とか違うし！ ちゃんと唱えたよ 『弓に選ばれし者』って、その証拠に、ほら弓持ってるから

みさと ねえ、ちょっとどうゆうこと？

傘差 なんだ〜、驚いて損した。こんだけ必死に呼び出すからもつと凄いのが出るかと思ったら

首吊 出てきたのは娘っこじゃない。あの方も心配すぎよねえ。さあ傘差、安心したところでやっちゃおうか？

傘差 だね、首吊♪

八葉 ダン大、マジやばいよ〜。

白晴明 仕方ないこうなったら、（みさとに）ねえキミ、名前は？

みさと この状況でナンパ？？

白晴明 おいとかお前とかで呼ばれたくないでしょ？

みさと それはそうだけど、いきなり初対面で……。

傘差達襲いかかる。白晴明達 みさとのところまで逃げる。

白晴明 （傘差との間に壁を張り）とにかく、名前を！ ……キミのことが知りたいんだ。

みさと え……みさと、宮守みさと。

白晴明 みさとクンね、八葉！

八葉 OK、みさっちゃんね！ しくよる〜（みさとの手を取り自分の胸に）。

みさと 何、って手熱っ！

八葉 これで、俺達一心同体だから。

みさと 一心同体とか、わけわかんないし！

白晴明　ちゃんと説明するから。まずはその弓であいつ等を撃って！
みさと　先に説明！　しかも矢がなきゃ撃てないし！

八葉　ダンナ、この結界ももうやばいって

白晴明　とにかく引いて、引けば分かる！

みさと　何が何だか……とにかくあいつ等に引いて撃ったらいいのね？

白晴明・八葉　早く！

みさと　ええい、ヤケよ（弓を引く）……何これ？　何かが入ってくる

八葉　ダンナ、力がビンビン来てるぜ！　この子でキマリだ！

首吊　ねえ　これ？

傘差　うん……マズくない？

みさと　あんた達が何者か知らないけど、あとでちゃんと説明してよね？

白晴明　ボクの名は安倍晴明　一条戻橋から来た。京は今　ねらわれてる！

みさと　……なんですって？

八葉　呪力充填　発射！

爆発音と激しい光

暗転

暗闇の中、携帯のライトが光り　みさと登場

みさと　本堂の中って思ったより広いんだね。携帯のライトじゃ奥まで届かないよ　……ねえ　なんか黴くさーい！
貴之　それが歴史のにおいって奴だ。えっと、明かりはこれな

明かりがつく。

神社の本堂の中、奥に和弓が供えられている。

貴之　ったく、俺が一番乗りするはずだったのに勝手に開けてさっさと入りやがつて

扉は開けられるためにあり、入り口は入るためにある。有名な人の言葉よ。

貴之　誰だよ？

みさと　（あ・た・し）

貴之 あのなら……そもそも俺一人で来る予定だったんだぞ。何しについてきたんだ？ お前興味あるの戦国と幕末じゃないか。俺

が研究してるの平安だぞ？（カメラとか取材の道具だしたり）

みさと 平安だって興味あるわよ。歴女なめんなよ？ タカ兄が出かけるのならきつと歴史に関係あるところだって閃いたの。女の

勘ってヤツ？ ねえねえ光源氏と頭中将どっちが攻めだと思う？

貴之 お前の日本語は時々わからない。……あのさ、お前兄貴達に何か言われてついてきたんだろ？

みさと え？ ……ソナコトナイデスヨ ……仕方ないじゃない。パパ達タカ兄のこと心配してるんだよ？ あんなことがあったし。

貴之 早まったことするんじゃないかって？ もう半年前のことだぞ？ 当時だってなんとなく予兆は感じてたし、気持ちの整

理くらいついてるよ。

みさと 予兆？

貴之 お前も気をつけるよ。彼氏がやたら他の女の子を褒めだしたら要注意だからな。それに、兄貴が俺を心配してるのは昔っ

からだよ。

みさと 年はなれた兄弟だからかな。仲いいものね。

貴之 ああ、怒鳴られたことも一回しかない。

みさと いつ？ 何やったの？

貴之 お前が三歳の頃、「貴之お兄ちゃんと結婚する」って言ったときだよ。そしたら兄貴「みさとはパパのお嫁さんになる

んだー！」ってさ。殴られたのも、今のところあの時が最初で最後だ。

あ〜、やっちゃったのはあたしな。……で、そろそろ教えてよ。ココに来た目的。

貴之 安倍晴明は知ってるか？

みさと 陰陽師 安倍晴明でしょ？ いくらなんでもそれくらい知ってるわよ。

貴之 じゃあ晴明は一度死んだことがあるって話は？

みさと 一度死んだ？ 一回死んだら終わりじゃない？

貴之 まあな、でも歌舞伎や浄瑠璃の題材にもなってるそれなりに有名な話なんだ。晴明がライバルである蘆屋道満の術によっ

て殺されるんだが……。

みさと 晴明って当時最高の陰陽術師でしょ？ ライバルだからってあっさり殺されたりするの？

貴之 それがまあ、道満もしたたかなんだ。晴明の留守中に晴明の奥さんと不倫関係になって、晴明の大事な本を盗み読み、殺

すための術を身につける。

みさと へえ、ニコノ（ネトラレ）ね！

貴之 ……十代の日本語は乱れてるな。で、晴明は死ぬんだが、当時晴明が教えを受けていた伯道上人が急遽駆けつけ、道満の

首を切り晴明を生き返らせる。さて今の話、本当にあったことだと思うか？

みさと ええ？ ……うーん さすがに人が呪い殺されてそれが生き返るって話は……ねえ？

貴之 まあ俺もそう思ってた。

みさと 思ってた？

貴之 その生き返ったって話が事実だって証拠が、この神社にあるらしいんだ。

みさと ここに、ねえ。

貴之 前に見つけた文献にそう書いてあって、以来ずっとここを調査できないかお願いしてたんだ。それでやっと今日許可が下

りて、さあ歴史の真実へ第一歩だったのに、お前は……。

みさと あははは……ゴメン。ねえ、気を取り直して調査しよう？ ほらほら、見たところあるのは黴臭いにおいと……あ、あそ

こに弓がおいてる。

貴之 勝手に触るなよ。それは御神体らしい。名前は残ってないけど晴明にゆかりのある人物の持ち物だとか。

みさと ふーん、これがねえ（手に取っちゃう）。

貴之 だから勝手に触るなって！ 入る前に『撮影はいいけど、置いてある物には触るな』って厳重に言われたじゃないか。

みさと 「触るな、触るな」って念を押して言うのは、遠まわしに触れてことよ。誘い受けて奴？

貴之 もう攻めとか受けとかいいんだって！

みさと 待って……何か聞こえない？

バックで白晴明と八葉の会話が途切れ途切れに聞こえる。

貴之 ごまかすなよ、何も聞こえないぞ。

みさと 本当なんだって、何か体の奥に響いてくるの。そうか、この弓から聞こえてくるんだ。ほら、タカ兄も持って！

貴之 やめるよ、共犯にするつもりか？

みさと だって聞こえるでしょ？ ねえこれって何？ この弓の記憶？

貴之 馬鹿言ってるんで、とにかく弓を元に戻すんだ。

みさと どうして、タカ兄の見たい歴史の真実ってのが見えるかもしれないよ？

貴之 真実は知りたい。だけどそれとコレとは別だ。

みさと でも……うん、わかった。……あれ？

貴之 ？

みさと 弓が手から離れない。

貴之 みさと、いいかげんにしろ！

みさと いたたた……無理だって。

白晴明の声 臨兵闘者皆陣列在前……天地神妙みだれし時 人也しこの身は今求め訴えり、陰陽正すもの、闇を撃ちしもの、魔を祓
いし弓に選ばれしものよ……破っっ！

みさと え 何？ 何だか引っ張られる。タカ兄 助けて！

貴之 みさと！

貴之 みさとの手を取るが振り回されてどこかに飛ばされる
不思議な光と音があって、暗転。

明かりがつくと、召還されたときのポーズのみさと。
周りに白晴明と八葉

みさと というわけよ。今度はそっちの番よ。さっきまでいた二人は何者で、どうして戦ってたの？

白晴明 連中は妖怪で、超エリート陰陽師の手下。この都から人間を駆逐して、妖怪だけの世界を作ろうとたくらんでるってワケ。

八葉 それをダンナと俺で今日まで守ってきたってわけさ。

みさと あれが妖怪～？ うっさんくさいの。

白晴明 ボクの術によって遠い未来より呼び出されたという事実を踏まえたら受け入れた方がいいと思うけどね。

みさと そうよ。なんであたしは平安の時代に呼び出されたりするわけ？

白晴明 そこなんだ。ボクらは京の平和を守るために日夜戦ってきたわけだが、相手の力は強大でね～、ぶっちゃけ戦力が足りない。

八葉 そこでダンナはその破魔の弓に選ばれた使い手と呼び出す術を使ったわけだ。

みさと それがあたし？

白晴明 ザツツライト！

みさと ちょっとまった！ さっきから何よ。平安の人間が横文字使うな！

八葉 ツツコむトコそこ？

白晴明 戸惑うのも無理はないが他の時代から呼び出す都合上、言葉が通じるようにしてるんだ。そこら辺は気にしないでくれ。

八葉 おそらく今俺達の言葉はみさちゃんの中で自分の時代の言葉に書き換えられて聞こえてるはずさ。

白晴明 べっ別に当時の時代考証が面倒くさかったわけじゃないからねっ！

みさと 誰に言ってるのよ。で、その超エリート陰陽師ってだれ？

白晴明 ボク。

みさと はあ？

白晴明 ま、「もう一人のボク」と言っべきかな？

みさと 「もう一人のボク」って、あなた安倍晴明よね？ 晴明ってもう一人いるの？

八葉 いるというか、二人になっちゃったんだよね

白晴明 ボクが一度死んだってのは聞いてるんだよね、伯道上人が蘇らせてくれたことも、けど、その術は完璧じゃなかったんだ。僕の魂は分離してしまって、二人になってしまったんだ。

みさと だから、なんで二人に？

白晴明 ボクって実は妖怪と人間のハーフなんだけど、術の影響でそれが分かれてしまったんだ。人間としてのボクと妖怪としてのボクに。

八葉 で、俺達が戦ってるのが妖怪としての安倍晴明、便宜上「黒の晴明」って呼んでるけど。

白晴明 改めて自己紹介しよう、僕は人間の方の安倍晴明、自分でいうのもなんだけど、「白の晴明」ってことになってる。彼はボクの式神で、八葉

八葉 どもへ、やっちゃんです。

みさと チャラあ……で、あたしにどうしろと？

白晴明 ボクと契約して陰陽師になってよ！

八葉 ぶっちゃけ、弓引くときに半分は仮契約してるんだけどね。

みさと は～？ まさかあたしにさっきのとまた戦えとかいわないよね？

白晴明 この弓は君にしか扱えないんだよ、二人に分かれた時に、ボクの陰陽師としてのパワーは向こうに持っていかれた。お陰で式神も八葉を呼び出したらガス欠さ。幸い陰陽術の知識とコントロール技術はボクが持ってるから最悪の事態は避けられたけど、そしたら今度は妖怪を部下にしてそいつらをけしかけ始めたんだ。

みさと それだってわからない、同じ安倍晴明がどうして戦うのよ。

白晴明 向こうが言うんだよ。

八葉 「安倍晴明は二人もいない」

白晴明 って、それに今じゃあやつらは一般人も襲ってる。戦わない理由なんてない。

みさと なら好きに戦えばいいでしょ？ あたしははぐれたタチ兄を探し出して帰らないといけないの！ あんた達の都合でこんなところまで呼び出して振り回さないで！

白晴明 そうか、そうだよね……ボクが勝手だったねえ……ああ……（凹む）。

八葉 ダンナ、落ち込んだじゃダメだって！ ダンナがやらないとこの京は妖怪達の巣窟にされちゃうんだから、でも、怒られちゃったし、やる気なくしちゃったな～。

八葉 ダンナ～元気だしなって。

白晴明 ……じゃあ、いつものやって？

八葉 しかたないなあ。せーの、晴明！晴明！晴明！（みさとに）ほらみさっちゃんも！

みさと え？ …… 晴明！ 晴明！ 晴明！

二人の晴明コールで立ち直る白晴明

白晴明 よ〜っし、ボク頑張っちゃおうかな！

みさと それはよかったわね、じゃああたしはこれで

白晴明 待ちたまえ、君はどうやってここから叔父さんを探し出して帰るつもりだい？ ここはキミの時代の京じゃない。それに呼び出したのはボク、つまり帰すことが出来るのもボクだけ。

みさと 脅すつもり？

白晴明 そう聞こえてしまったなら SO SORRY、でもキミにも関係ある話なんだ。ここでもしボクらが負けてしまえば京いやこの国は妖怪の世界になってしまう。つまり、未来におけるキミの世界も妖怪に侵されてしまうのだよ、例えばこのように！

八葉 ヒャッハ、人間め食べてやるぞー！

白晴明 あーれー！

白晴明・八葉 (みさとをチラリ)

八葉 焼いて食ってやるー！

白晴明 あーれー！

白晴明・八葉 (みさとをチラリ)

みさと …… わかったわよ、やればいいんでしょ！ でも、タカ兄を見つけるまでだからね！ 見つかったらさくっと倒して帰るんだからね！

白晴明 うん、どっちにしてもそのタカ兄とやらは探さないとけないね、聞いたところこの時代に詳しいみたいだし、その上未来

の出来事も知っていると連中に見つかったら面倒なことになる。

八葉 やったねダンナ、仲間が増えたよ！

白晴明 うん、こうなったら一条戻橋の屋敷まで戻ろう。やることはいっぱいあるからね。

みさと やること？

白晴明 まずはその格好をどうにかしよう、そして次にやることは決まってる。

みさと 何？

白晴明 もちろん修行さ！

みさと え〜！

暗転

妖怪達のアジト。傘差と首吊を影が囲む
最初の台詞で人物にスポットが入る感じ。

ゆかり 大口たたいて先陣を切った割には無様なものだな

傘差 だって、相手は二人だと思ってたし。

首吊 呼び出された小娘もあんなに強いとは思わないしさ。

ゆかり 言い訳は見苦しいぞ。

鬼童子 仕方ないよ。こいつら僕らの中では一番の小物だし。生きて逃げて来ただけ上等だよ。

傘差 小物？

首吊 ちよつと、ムカつくんですけど。

法師 言い返すのだけ一人前でも仕方ないだろう。鬼童子 お前も口が過ぎるぞ。

鬼童子 へいへい。ねえ晴明様、こいつらじゃなくて僕に任せてよ。さっさと始末してあげるからさ。

黒晴明 ……うむ。

傘差 まって下さいよ。今回は油断しただけですから！

首吊 もう一度チャンスを下さい〜。

黒晴明 ……うむ。

法師 晴明、どうするのだ？

黒晴明 ……うむ。

ゆかり うむ、じゃなくて。

黒晴明 うむ…違った。…傘差 首吊 お前達に魑魅魍魎をつける。汚名を返上して見せる。

傘差・首吊 ははっ！

傘差・首吊退場

鬼童子 手下の無駄遣いだと思うよね（退場）。

法師 （一礼して退場）

黒晴明 ……ゆかり。

ゆかり 何だ？

黒晴明 例の件はどうなっている？

ゆかり まだだ。網にもひっかかっちゃいない。
黒晴明 そうか、引き続き任せな。

黒晴明退場

ゆかり ……もう出てきていいぞ。

奥から貴之登場

貴之 今の、何？ テレビ電話みたいなの。

ゆかり 互いの妖力をつなげただけだ。相手の同意がないと無理だから、今は大丈夫だ。

貴之 はあ……で、今のがもう一人の晴明？

ゆかり 黒の晴明と、私達は呼んでいる。

貴之 黒の晴明それに妖怪ねえ……平安時代にタイムスリップしたのはいいけど、俺の知ってる歴史観が崩れてしまいそうだ。

ゆかり お前の価値観などどうでもいい。さあ、話してもらうぞ。

貴之 話す？ もう話すことなんてないぞ。俺は千年以上未来から来てそこでは貴族も百姓も武士もいなくて鉄の道具で何でも出るとか全部話したじゃないか！

ゆかり そんなことはどうでもいい（気迫みたいなのを飛ばす）！ ……あの続きだ。

貴之 あのか？

ゆかり 何度とも言わせるな！ お前が調べているという物語の、続きだ。

貴之 ああ、あれか。でも本当に源氏物語知らないのか？ そろそろ出回ってるはずだけど。

ゆかり 話さないで殺す。
貴之 話したのは帚木（ははきぎ）、雨夜の品定めまでだった。頭中将から中流の女性のよさを聞いた源氏の君は……。

暗転

ポップな音楽と共に白晴明・八葉・みさと

白晴明 はい、ワンツー・ワンツー！

みさと 何これ？

白晴明 修行だよ修行

みさと これが？

白晴明 ああ、この世界は常に二つのもので出来ている。光と影。男と女。イエスとノー。つまり1と2だ。まずはそのビートリズムを体に刻むんだ。

八葉 そして式神として契約した俺とシンクロするためのリズムを身に付ける。それ。ワンツー・ワンツ。

みさと えっと、ワンツー・ワンツ。

白晴明 それと合間に攻めてくる妖怪との戦闘で実践経験も積んでもらうからね。

みさと マジ？

傘差達襲来。民間人を襲っている。

白晴明 ボクは公務があるから。SeeYouNext(退場)！

みさと あ、ずるい！

軽い戦闘。妖怪達退散。民間人感謝して退場。

白晴明 (戻ってくる)さて、修行再開だ！

みさと えへ、ちょっと休ませてよ。

白晴明 ダメダメ、敵は待ってはくれないよ！

修行再開。しかし、隙をついてみさととは脱走。

白晴明 (気付いて)あれ、みさとクンは？

八葉 そういや……逃げた？

白晴明 ちょっとやり過ぎちゃったかなあ。

八葉 ダンナ、焦る気持ちはわかるけどペース考えなきゃ。こないだだって……ああ、ごめん。

白晴明 Don't mind。彼女はあの子じゃないのを忘れてたよ。さて、感傷に浸ってる場合じゃない。ちょっと探してきてくれよ。

八葉 オウツケイ～！

八葉退場

白晴明 そうだよな あの子のこともほったらかしにしておけないんだっ

白晴明退場

妖怪幹部会議

鬼童子 数を増やしたところで雑魚は雑魚だったってことだね

傘差 いや、マジあれやばいって

首吊 こいつら二匹役に立たないし

赤殿中 (あかでんちゅう) えへ、こっちのせいにするわけ？ マジないし

白徳利 (しろどくり) そもそもウチら、そっちの尻拭いできたわけだし

傘差 そんなこと言っているの？ 俺マジ喧嘩強いし

赤殿中 はあ？ ここじゃあともかく讃岐でトップ張ってたのこっちだし

傘差・首吊 やるか？

赤殿中・白徳利 表出る！

法師 いい加減にしる。しかし、この者達の動きで確実に民衆の不安はつのってきている。全くの無駄ではない。

鬼童子 何？ こいつらの肩を持つの？

法師 失敗は失敗なりに評価する点があるということだ。お前のように目先の結果だけ追えばいいというものではない。

ゆかり とはいえ、陰陽寮の評価が上がっているのは捨て置けないな。聞いたところ、白の晴明の弟子、それも若い娘が破魔の弓を

使って妖怪を撃退しているとか。

鬼童子 だから僕に任してくれたらよかったんだよ。ねえ、晴明様！

黒晴明 まあ待て、まだ結論を出すには早い。

鬼童子 そんな悠長なことを言ってたから、白の助けを呼ばせる余裕あげちゃったんじゃないか？

黒晴明 確かにお前なら連中を排除することはたやすいだろう。しかし、そうなったら白の晴明の力は消滅してしまうではないか？

連中を絶望まで追い込み力を奪い我が身に宿す、それこそが我が目的だ。

鬼童子 それが僕に出来ないとしても？

黒晴明 それをするにはお前は強すぎる。いいか、お前の力をもっと大事なこのために温存しておかねばならない。ここはこらえ

る。

鬼童子 ……わかったよ でもじゃあどうするんだよ？ このまま雑魚ぶつけるだけ？

黒晴明 そのことだが法師よ あれの仕上がりはどんなになっている？

法師 上出来だ。何しろ師匠がいいからな

黒晴明 フフ、それは皮肉か？ 狸どもよ、貴様らは引き続き事にあたね。ただし、作戦の指示はヤツに採らせる

傘差 オレ等降格？

赤殿中 やだ、マジ受ける

首吊 アンタらアタシらの下じゃん？ さらに降格よ

白徳利 あ、しまった

黒晴明 汚名返上の機会はすでに与えた。まさか不満があるとか？

傘差達 (首をふるふる)

黒晴明 では指示を待て

狸達 はっ！

狸達退場

法師 では私はあいつを呼び出すでしょう。

法師退場

鬼童子 ……。

黒晴明 どうした？ 不満か？

鬼童子 別に。僕らの目的は同じなんだから、結果が出てくれさえすれば構わないさ。

鬼童子退場

黒晴明 ゆかりよ

ゆかり 何だ？

黒晴明 あれでよかったのだろうか？ 狸や鬼童子に対してきつく言い過ぎてしまったんじゃないだろうか。今のが理由で明日から

来なくなってしまうらどうしよう？

ゆかり バイトに強く言い過ぎて後悔してる社員かお前は

黒晴明　しかしフォローしようにもどう言っていにか……。
ゆかり　コミュニケーション能力は白の晴明の領分か。お前はどっしり構えとけばいい。余計なことをすると、返って指揮に関わる。
黒晴明　そうか。そうだな……。

黒晴明退場

貴之入ってくる。

貴之　あのさ、晴明の弟子で弓持ってる娘って……。

ゆかり　ああ、恐らくお前の姪御だろうな。

貴之　あいつまで巻き込まれてしまったのか。

ゆかり　むしろその娘が本命で、お前はオマケじゃないのか？

貴之　そうとも言うな。で、いい加減俺を連中に引き渡さなくていいの？

ゆかり　そうされたいのか？

貴之　ちなみにされるところなる？

ゆかり　情報を引き出された挙句によくて人質。悪ければアヤカシに改造されるな。

貴之　シヨッカーかお前ら。

ゆかり　お前が心配しなくても、いずれ引き渡すさ。あの話が終わったらな。

貴之　話って、最後まで聞きたいわけ？

ゆかり　最後まで読まない物語に何の意味がある？　お前の命は、あの物語をどれだけ細かく鮮明に面白く話すかにかかっているのだ。

茶と菓子を出させるから、続きだ。

ゆかり退場

貴之　やれやれ、とんだアラビアンナイトだ。

貴之退場

脱走してきたみさと。

みさと さすがに京の外までくれば見つからないわよね。二十一世紀から呼び出しといて人使い荒いのよね。これじゃあ折角の平安時代観光する暇も……もといタカ兄さがす時間もないね。さてと、どこから探そうかな？ ……ん 歌声？

歌声が聞こえてくる

とっさに隠れてしまふみさと

歌いながら現れる名無

名無 どうしてそこに隠れてるの？ 捕って食ったりしないわよ。

みさと (出てきて) ほら、アイポッドで音楽聞きながら気持ちよく歌ってる人なんか朝見かけるんだけど、あれって歌ってるとこ

見られてる本人の方が恥ずかしいんだろうけど、なんだかこっちも見たらいけないような気がしない？ ……ごめんなさい、何となく隠れちゃいました。

名無 おかしな子、謝ることないのに。あの子のお友達かしら？

みさと あの子？ あたしここには友達いないけど？

名無 まあ、友達いないの……？

みさと さびしい子見る目で見ないでよね。最近こっちに來たばかりだから知り合いが少ないって意味だから

名無 そう……？

みさと 本當にわかっててくれるのかな。で、あの子って？

名無 よくここに遊びに来てくれる子がいるの。今もその子が隠れてるのかと思ったから

みさと その子とあたしを間違えたわけね。ああ、あたしみさとっていいいます

名無 そう、みさとちゃんね

みさと こころへんに住んでるんですか？

名無 ええ。

みさと あ、こころへんで変な格好をした三十代のうすらぼんやりとした男の人見ませんでしたか？

名無 うすらぼんやり？

みさと ええ、タカ兄っていったあたしの叔父さんなんです。ちょっとはぐれちゃって。

名無 ……見なかったわ。

みさと そっかあ。まああてずっぽうに探しても駄目よねえ。

名無 もし見かけたら教えるわね。

みさと お願いします。あたし今一条戻り橋の安倍さん家にお世話になってるんで、手紙か伝言してくれたらすぐここに駆けつけま

す。

名無 安倍さん？

みさと ええ、陰陽師の安倍さんです。……どうしました？

名無 何でもないね。あら、来たみたいね。

牡丹登場

名無 牡丹ちゃんいらっしやい。

みさと 牡丹？

牡丹 ……干し柿、沢山もらったからお裾分け。

名無 まあ、ありがとう。

牡丹 ……（この子は？）

名無 みさとちゃん、今会った子よ。牡丹ちゃんと間違えちゃって。

みさと 宮守みさと、よろしくね。

牡丹 宮守、みさと。

名無 そうだ、叔父さんを探してるなら牡丹ちゃんに手伝ってもらったほうがいいね。私より京に詳しいから。

牡丹 叔父さん？ 手伝い？

名無 この子、叔父さんとはぐれちゃったみたいなの。

みさと はぐれたのはあたしじゃなくてタカ兄の方。ああ、タカ兄ってのが叔父さんね。

牡丹 （名無に）手伝ってあげたほうがいい？

名無 この子、友達がいらないの。仲良くしてあげてね。

牡丹 わかった、仲良くしてあげる。

名無 よかったわね。友達、できたわよ。

みさと だから悲しい子みたいにいわないで。もうわかったわよ。友達ね。よろしく、牡丹ちゃん。

牡丹 牡丹でいい。

みさと じゃああたしもみさとね。

名無 じゃあ後は若い子同士で。

みさと あ、名前聞いてもいいですか？

名無 私？ 私は名前がないのよ。

名無 意味深な微笑を残して退場

みさと 名前がない？

牡丹 私もあの人の名前知らない。

みさと そうなの？ 付き合いに支障でない？

牡丹 行こう。

みさと え？

牡丹 叔父さん探すんでしょ？

牡丹退場

みさと 待ってって！

みさと退場

貴之登場 その後ろからゆかり。

貴之 そろそろ泣き止んだら？

ゆかり だが、夕顔があまりにも不憫で (泣)

貴之 そっちに感情移入するんだ。どっちかというと、六条御息所に近いキャラなのに。

ゆかり 何か言ったか？ さて、続きだ。

貴之 ちょっと待って、何時間話してると思ってるの？さすがに休憩を・・・。

ゆかり そうか？・・・つい夢中になっちゃった。楽にしてくれ。

貴之 こっちはただの人間なんだ。あんたら妖怪みたいにタフじゃない。

ゆかり なぜ私が攫った人間の体を気遣わねばならん。文句があるなら、私を夢中にさせたこの物語を書いた奴に言え。

貴之 書いた奴って・・・そうか、この時代なら会える可能性あるんだよね。そっか、それはいい案だ。紫式部に会って直撃イン

タビュート、こいつはいいぞ (軽く暴走)。

ゆかり・・・おい、ちょっと待て。おい！

貴之 あ、ごめん。自分の世界に入ってた。考えたら囚われの身なのに会いにはいけないよな。

ゆかり そうじゃない。紫式部とはどういうことだ？

貴之 どういうことだって、今までそっちに聞かせてた源氏物語の作者だよ。知らない？

ゆかり 聞いているのはこっちだ。その紫式部というのはどついう人物だ？

貴之 ……えつと、藤原の為時の娘で中宮彰子の女房で……。

ゆかり ……それは 私だ。

貴之 え？

ゆかり だから、それは私だと言った！ 藤原為時の娘で彰子様の女房といったら私以外いない。

聞

貴之 えー！ あんたが紫式部？ なんで妖怪になんかなってるんだよ！ 大体それなら源氏物語書いたのあんただろ？ 自分の書

いた物語人に話させて、どれだけ自分好きだよ！

ゆかり 紫式部は確かに私だ。でも私はお前の話してくれた源氏物語とやらは書いてない。

貴之 はあ、わけわからないよ。あんたは紫式部なんだろ？ でも源氏物語は書いてないって？

ゆかり でもそれが事実だ。

貴之 まてよ、源氏物語の作者は紫式部じゃないって説も……。

ゆかり とうか、こんな面白い話があるなら誰が書くとうと有名になっているはずだろう？ 私はお前から聞くまでこんな物語があるだなんて知らなかったぞ。

貴之 え……それって。

ゆかり つまりこの時代にお前の言う源氏物語はないということだろう。

貴之 源氏物語が平安時代に存在しない……そんな……（パタン）。

ゆかり おい大丈夫か？

貴之 俺ってさ、中学時代に国語の授業で源氏物語習ったんだよ。そのときに感動したんだよ。千年も昔の物語が今に伝わってるんだ。そのときの人達が感動した物語を今自分達が同じように読むことが出来るんだって。俺、その感動がきっかけで今の仕事に就いたんだよ。なのに……俺の感動返せよー！

ゆかり 訳わからないこというな！

貴之 よし決めた！ あんた源氏物語を書け！

ゆかり はあ？

貴之 あんたは紫式部。でも源氏物語を書いてない。だったら、これから書けばいい！

ゆかり そんな急に言われても……。

貴之 じゃあこうしよう。俺が最後まで源氏物語を話す。それを聞いてあんたは「自分ならこうする」「って感じで書くんだ。ゆかり、そんなのでいいのか？

貴之 いいに決まってるだろ 源氏物語の作者はあんたなんだ。さあ、早速始めるぞ。
ゆかり いや、私はまだ書くなんて。それに休憩はいいのか？
貴之 休んでられるかー！

貴之退場 ゆかりそれを追って退場

化け狸達の会話

傘差 (飲んでる)

首吊 飲み過ぎだよ

傘差 でも飲まなきゃマジやつてられねえじゃん。俺ら呼ばれて来てやったのにこんな扱いなんてよ

白徳利 とはいえ、このままじゃボスに合わせる顔ないし。京の妖怪に力貸して恩売ってこいて言われたのに、ウチらのやってることって下っ端の下っ端じゃん。

傘差 下っ端って誰だよ？

白徳利 今下っ端って言葉に反応した奴。

傘差 何だと？

赤殿中 よしなつて、でさ。これから指揮を執る「あいつ」って誰？

首吊 よく知らないけど、連中の秘蔵つ子ってやつ？ 対「白の清明」の秘密兵器なんだって。

白徳利 そんなもんがあるなら、初めっから出せばよくね？

傘差 知らねえよ。理由はあるんだろうけど黒の清明様は何も言ってくれないしな。

赤殿中 つか、あんまし喋らないよね？

白徳利 うん、何考えてるかわからない感じ。

首吊 いいじゃん。余計なことを喋らない男ってマジシブいし。

傘差 さて、気晴らしに人間からかいに行く？

一同 いーね。

狸達退場

みさとと牡丹。

みさと でタカ兄と一緒にこの時代に来ちゃったわけ。つまり、あたしは未来からきたの。

牡丹 …… そうなんだ。

みさと そうあっさり信じられると逆に不安。ちなみにあたしの言う未来ってそういう名前の国じゃないよ？

牡丹 過去から今へと連続する時間軸の延長線上にある未来でしょ？

みさと 平安人の方がなんか高度だ……。

牡丹 みさととは友達に嘘吐いたりする？

みさと へ？ …… ううん、よっぽどの理由がない限りはつかないよ。つかないようにしたいと思ってる。

牡丹 なら今の話は本当、違う？

みさと いや、違わない。

牡丹 ならそれでいいじゃない。……ねえ、聞かせて。みさとの時代のこと。

みさと あたしの時代？ そうね……そんなに変わらないかな。そりゃあ身分制度とかはないけど。ただ、色々技術は進んだけどまだ治せない病気もあるし、恵まれた人とそうでない人もいてそれを理由に争いもなくならない。あたしも毎日細かいことでよくよ悩んだりしてる。

牡丹 悩み？

みさと 勉強とかダイエットとか、恋とか？ まっ逆に言えば平凡な女子高生が細かいことで悩める平和な時代ってことかな。

牡丹 そうなんだ。

みさと タカ兄に言わせると、あたしがそんなことで悩んでられるのは昔の人のおかげだって。

牡丹 どういうこと？

みさと あたしが飢えることも不条理な争いに巻き込まれることもない時代に生きて、日々の悩みも前髪切りすぎたとかで済んでるのは、昔の人がそれぞれの時代を一生懸命に生きたおかげだってさ。それって牡丹のお陰で、今のあたしがあるってことだよ、ね？

牡丹 私？

みさと うん、じゃあ友達じゃなくて恩人だ。

牡丹 …… 友達でいい。

みさと 冗談だって。でも、その話を聞いて思ったの。明日頑張るために、今日を精一杯生きなきゃねって。

牡丹 今日じゃなくて明日を頑張る？

みさと あ、今問題を後回しにしていると思った？ まあそういう使い方もあるけどあたしは違う。明日本当に頑張ることが出来たら、きっとそのまま明るい未来に繋がるの。だからあたしは明日頑張る。明日こそ本気出す。

牡丹 明日こそ？

みさと そういつだって未来を頑張るさーって 頑張るためにそろそろサボリはやめて戻るのかな あれも一応師匠になるもんね ちゃんと教えてもらわないと。

牡丹 師匠？

みさと あ、言ってなかったね 安倍晴明って、かつるーい陰陽師。あたしを呼び出して妖怪と戦わせてるのよ。

牡丹 晴明・・・私 帰る。

みさと 牡丹も？ また会える？ そういえばどこに住んでるの？

牡丹 時々あの人の所に行くからそのときに。

牡丹退場

名無 あら 牡丹ちゃん帰っちゃったの？

みさと あ、名無しの人。

名無 名無し？

みさと あ、ごめんなさい。

名無 いいのよ。そうね、これから名無って名乗ろうかしら。叔父さんは見つかったの？

みさと いいえ、でもそろそろ戻るうかと。安倍さんの用事もやらないといけないし。

名無 用事？

みさと その、なんていうか、今まで一つだったものが二つに分かれちゃって、そのせいで揉めてるみたいな

名無 そうなの、何か大変ねえ。

みさと はい。

名無 でも、二つに分かれたものは、また一つにならなきゃね。

みさと へ？

名無 じゃあね、みさとちゃん

名無退場

みさと 二つが一つ？

八葉登場

八葉 みさっちゃんハケーン！ もうサボるならサボるで一人で行くなんて俺っちカナシ。

みさと ごめん もう戻るから。

八葉 え 帰るの？ 俺 いいスポット知ってるのに。

みさと ねえやっちゃん 二つが一つに戻るってどういうことかな？

八葉 二つが一つに？ もしかしてダンナのこと？

みさと うん さっき人にそういわれたの。 やっちゃんはどう思う？

八葉 そっいうみさっちゃんは？

みさと うーん・・・。

背後で白晴明と黒晴明登場 ひっしと抱き合う。

白晴明 黒！

黒晴明 白！

白晴明 ボク達争っていたけどでもそれは愛ゆえだよ！

黒晴明 そう 想いを突き詰めた故の憎しみ この感情すなわち愛！

白晴明 ボク達もう離れないよ。

黒晴明 ああ 二人は一人 今こそ一つになるとき！

白・黒 ボク達の太極が混ざり合っていく・・・。

みさと・・・みたいなの？

八葉 二十一世紀って本当に未来なんだね 俺はどっちかいと・・・。

白晴明と黒晴明が電気を浴びるようにしながら一つに重なる

白・黒 ワタシハオンミョウジアベノセイメイ コンゴトモヨロシク。

八葉・・・みたいな？

二人 アハハハ・・・てなわけないか。

何か通信音

白晴明 EmergencyFromボクだ。 また狸達がやってきた。 早く戻ってきてくれ。

みさと ごめん 友達といたの。すぐ戻るから
白晴明 友達？ キミ友達いたの？

みさと 残念でした。できたのよ。牡丹ちゃんっていうの。紹介するから

白晴明 牡丹？ とにかく早く ComeBackPlease

みさと 行こう！

八葉 オウケーイ！

みさと・八葉退場

暴れている狸達

傘差 ヒヤッハ、燃える燃える！

首吊 ちょっとやり過ぎじゃない？ ちょっとからかいに來ただけなのに。

赤殿中 何？ 人間の心配なんかしてるわけ？

首吊 そういうわけじゃないけどさあ

白徳利 首吊乗り悪いし。見なよ。あの逃げ惑ってる人間達。今まで夜の影に逃げるように隠れてたのはこっちだったのに。今はあいつらが恐れ逃げ回ってる。いい気味だ。

傘差 よっし今度は向こうの通りだ！

白徳利 おー！

首吊 いやいや、これ以上やっちゃうと、気晴らしの範疇超えちゃうわない？

傘差 なんだよ首吊り、俺達が間違っているっていうのか？ 黒の晴明はこの世界を妖怪だけのものにしようとしている。なら俺達が今やっても同じだろ？

首吊 でも、何か違うわない？ これじゃあやられたことやり返してるだけみたいな……。

白徳利 それの何が悪いのさ？

首吊 あたしらのやりたいことってこういうことだったけ？

赤殿中 え？ そーいや……。

首吊 ウチら元々人間からかったりしてただけじゃん？ そりゃあ時々やりすぎたこともあったけどさ。

白徳利 確かに。妖怪の世界にするのだって、最初は単に表舞台立ちたいだけだったのに。

傘差 ほら逃げ惑えー！

赤殿中 ちょっと黙ってて。ねえ、いつのまにどうして人間皆殺しみたいになったんだっけ？

傘差 そりゃあ、黒の晴明達だろ？ 俺達は……。

首吊 黒の晴明は白の晴明を追い詰めるとは言ってたけど、人間殺せとは言わなかったし、ねえ、もしかして……。

みさと 見つけた！ 京の人達の生活を幸せを脅かす悪鬼悪霊妖怪を、今こそ退治してくれよう陰陽少女！ 安倍晴明に代わって 成

敗！

八葉 何それ？

みさと こちら辺でなんとなく決め台詞入れとこうかと思つて。

狸 キタコレ！

みさと そしていきなりの必殺技 破魔の弓！

狸 ！

みさと弓を放つが、

法師 我 汝の侵略するを禁ず。

術が打ち消される。

みさと あれ？

八葉 あれ？

狸達 あれ、生きてる？

法師登場

法師 何をしている、狸共。

傘差 今のは……。

狸達 (助けられたと理解) 神様法師様！

八葉 やばいよみさちゃん、あいつ法師っていつて連中のナンバー2だ。

みさと 中ボス登場 急展開ね。

法師 安心しろ、今日は貴様の相手をするつもりはない。小娘相手に大人げないからな。

みさと 小娘え？ なら本気にさせて大人げの一本二本見せてもらおうじゃない！

八葉 みさちゃんそれなんか下品

法師 (奥に) おい、修行の成果を見せる

頭巾を被った人物登場

法師 狸が逃げる時間を稼げ
？ (うなづく)

狸達 法師様 あざーっす！

法師 礼はいい、戻るぞ

狸 法師退場

みさと 逃がさないわよ、今度こそ最大出力！

みさと 矢を放つ？、それを防ぐがその勢いで頭巾が取れる

八葉 あれは……。

みさと ……牡丹？

牡丹 こんな形では会いたくなかった

みさと ねえ、どういうこと？ どうして牡丹が妖怪と一緒にいるの？

牡丹 それは私があなたの敵だから

みさと 敵？ あたし達友達でしょ？ 敵だなんて訳わからない。

牡丹 敵よ。あの人があたしの後釜にみさとを選んだのなら

みさと あの人って、白の晴明？

牡丹 (答えず) 我、我が姿晒す事を禁ず！

(目潰しか、暗転でもあって) 牡丹消える

みさと 牡丹……なんで？

八葉 みさっちゃん、あのさ

みさと やっちゃん、どういうこと？ あの子と晴明とどういう関係よ？

八葉 ……それはダンナに聞いたほうがいい。
みさと わかった。戻ろう。

みさと、八葉退場

妖怪会議

黒晴明 戻ったか。

牡丹 はい、こちらに。

黒晴明 聞いたところ早速連中と出会えたとか。牡丹よ覚えておけ。あれが我らの敵だ。

牡丹 ……はい。

黒晴明 それで法師よ、実際に会っての手ごたえはどうだ？

法師 試しに一度向こうの術を受け止めてみた。まだまだ未熟だが、今後の成長を考えると少々面倒かと。

黒晴明 勝てるか？

法師 牡丹なら大丈夫だ。これまでの下地がある上に我が呪術を授けた。それに、向こうの手の内を理解している。

鬼童子 成る程ね。確かにこの子をぶつけるのが向こうにとっては一番の嫌がらせだ。ちよいどいい駒がいてよかったじゃない。

法師 鬼童子、牡丹も我が志を共にする同志だ。道具扱いはやめる。

鬼童子 同士？ こいつは同志じゃない、人間だ。同族を裏切って強い方についただけじゃないか。

黒晴明 鬼童子、牡丹を連れてきたのは私だ。私の判断に問題でもあるのか？

鬼童子 ……ないよ。

黒晴明 牡丹よ、鬼童子の言ったことはその……気にするな。確かにお前は人間だが、我々としては……。

牡丹 いえ、仰られていることは尤もだと思います。ですから、この身の正しさは行動で示します。

黒晴明 そうか、それならいいのだ。狸ども、今回のことは不問にするが、今後勝手な行動は慎め。

狸達 ははっ。

黒晴明 それとゆかり、お前に任せていた任務は中止だ。白の晴明の術で呼び出されたというもう一人、これだけ探して見つからな

いというのならどこぞで野たれ死んだのであるう。

ゆかり ……かもしれないな。そもそももう一人についてはお前の占いでそう出たというだけだ。何しろ予定外のことが多いからな

手違いがあって呼び出されてすらいらないのかもしれない。

牡丹 もう一人？

法師 どうかしたのか？

牡丹 いえ、何も。

黒晴明 以上だ。他には？

黒式神△ ねえ 晴明様 私達思ってたんだけど

黒晴明 何だ？

黒式神△ 向こうも晴明 こっちも晴明でややこしいかなって。

黒晴明 だから 白黒とつけているのではないか。

黒式神△ でも、それだと「晴明様！」っていわれたときにどっちのかって聞き返さないといけないでしょ？

黒式神△ なら、別の名前にしてもいいんじゃない？

黒晴明 でもこっちが名前を変えたら 負けたみたいではないか。本当の晴明はこっちなんだから。

黒式神△ なら 通り名でもいいじゃない？

黒式神△ 赤い彗星とかみたいなの。

黒晴明 そうか？ ……ならこういうのはどうだ？ 「妖しき魔を統べる王」で「妖魔王」(ドヤ)！

間そして失笑。

黒晴明 どうした？ 何かおかしかったか？

傘差 いえいえ いいんじゃないっすか？ 誰も中学生の男子がいかにもつけそうな名前だとは思ってないっすよ。

首吊 そうですよ妖魔王様(笑)

黒晴明 おい今お前最後に(笑)とか入れて言っただろう？

傘差 じゃあ俺達これで

狸達 妖魔王様(笑)、ちーっす！

狸退場

牡丹 最低。

法師 私はそんなに嫌いではないぞ。

法師・牡丹退場

鬼童子 まあ それぞれ得手不得手はあるからね。気にしないほうがいいと思うよ。

鬼童子退場

ゆかり 名前のセンスも白の方の領分か。

ゆかり退場

黒晴明 ……おのれ 白の晴明め！

雷鳴・暗転

みさと 晴明 正座！

戻り橋の屋敷 正座している白晴明と八葉

みさと さて、話してもらうわよ。牡丹とあんたどういう関係よ？

白晴明 そのことなんだけど、キミどうして牡丹のことを？

みさと 質問を質問で返すな！ 牡丹の後釜があたしってどういうこと？

八葉 ダンナ、観念した方がいいよ。どう考えても隠しておけることじゃないし。

白晴明 隠してたわけじゃないよ。物には順番があつて……いや、いいわけだね。わかった。話すよ。あの子牡丹は元々ボクの子

みさと 牡丹が、弟子？ じゃあなんで妖怪側にいるのよ？

白晴明 ボクが白と黒に分かれた後、黒の方についていっちゃったんだよ。

みさと なんて？

白晴明 それは……。

八葉 ダンナ、隠し事はもうなしだって。俺はあの子のこと数日しか知らないんだし、ダンナしか話すことは出来ないんだよ。

白晴明 あの子の家はそこそこ有力な貴族だったんだけど、それを妬んだ何者かがモグリの祟り屋を雇って一族に呪いをかけたんだ。辛うじて牡丹は助けたけど、他の家族は……。

みさと どうなったのよ？

白晴明 みさとくん、キミは自分の家族が目の前で生きながら腐っていくのを見せられたらどう思う？

みさと ……。

白晴明 天涯孤独になったあの子をボクは引き取って陰陽道の修行をさせた。彼女自身の身を守らせるためにだったんだけど、あの子は違った。牡丹は、自分の一族を呪った者に復讐するためにボクから陰陽道を習ったんだ。

みさと 牡丹が復讐……。

白晴明 ボクが二つになったとき、黒の晴明が牡丹に言ったんだ。「お前の家族を奪った者に復讐するときだ」って。数日後、牡丹

はこの屋敷から姿を消した。

みさと 何なの、何やってるのよ。

白晴明 恐らく黒の晴明はあの子の憎しみを利用しようとしてるんだろう。

みさと そんなことを言ってるんじゃないの、あたしが言ってるのはあんたのこと！ どうしてもっとケアしてあげないのよ？ 一族が呪われて死ぬだなんて、そんなの普通ありえないわよ！

白晴明 君の普通はともかく、今はこういう時代なんだよ。人と人が光陰問わず争い、権謀術数めぐらす。彼女がその被害者だったってことさ。

みさと だから尚更牡丹の気持ちを考えてあげなきゃいけなかったんじゃないの？

白晴明 考えたさ、でも思っていた以上にあの子の持つ闇は深かったんだ。

みさと それで、代わりがあたしってわけ？ 妖怪側に行った牡丹を連れ戻しもせずに？

白晴明 連れ戻そうにもみさとクンがいなければ、妖怪側に対抗することすら出来なかった。戦力が逆転したらキミにも説明して連れ戻すつもりだったんだ。

みさと 言い訳じゃない、それ。

白晴明 ああ、言い訳かもしれない。でも、事実だ。

みさと 開き直らないでよ。あたし、牡丹と戦うだなんて嫌だからね。

八葉 でも向こうはやる気みたいだったよ。

みさと それでも嫌！

白晴明 ならどうする？ あの子を止められるとでもいうのかい？

みさと わからないわよ、でもあんたみたいに諦めない！

みさと退場

八葉 これはダンナが悪い。

白晴明 うん、返す言葉もない。でも

八葉 「あの子にボクの言葉は届かなかった」？

白晴明 よくわかったね

八葉 俺も一応ダンナの一部だからね ま どっちにしてもみさっちゃんに頼るしかないんだよね

白晴明 ああ けど

八葉 けど？

白晴明 何でもない。さ みさとクンの所に。彼女のフォローはキミに任せな

八葉 あいよ。

八葉退場

白晴明 ボクもそろそろ覚悟決めないとね

白晴明退場

佇む名無のところに牡丹がやってくる

名無 あら いらっしやい。今日はどうしたの？

牡丹 挨拶に来たの。もう当分ここには来れないから

名無 あらそうなの？ 寂しくなるわね

牡丹 その、色々ありがとう おかげで寂しくなかった

名無 お礼を言われるようなことはしてないね 私はただ 近くに越してきた一人暮らしの女の子に声をかけただけ 牡丹ちゃんの

言葉を借りたら 私こそ寂しかったのよ

牡丹 でも ありがとう

名無 いいのよ ところで 来れないってどこか遠くにでも行くの？

牡丹 ちょっと 違う。呼び出されたの 「今まで勉強していたことを活かさない」って。それで忙しくなるから

名無 そう……みさとちゃんには言ったの？

牡丹 みさと？

名無 友達になったんでしょ？ あの子にも忙しくなることを伝えなきゃ

牡丹 ……みさととは もう友達じゃない。

名無 喧嘩でもしたの？

牡丹 ううん……ただ私が悪かっただけ

名無 ……そう。ならごめんなさいしいけないわね

牡丹 どうして？

名無 どうしてって、牡丹ちゃんは自分が悪いってわかってるんでしょう？ なら会って 謝って仲直りしないと

牡丹 仲直りなんて出来ない。会えないの、もう。

名無 会えるわよ。何があったかは知らないけど、あの子ならちゃんと謝れば許してくれるわよ。

牡丹 そんなことで許されることじゃないの。だって私は、あの子の、て……

みさと 敵じゃないわよ！

隠れていたみさと登場

牡丹 みさと……どうして。

みさと こんなこともあるのかと先回りと言いたいとこだけど、ここしか心当たりなかったからずっと待ってたのよね あはは

名無 昨日からずっとなのよ。すごい顔で「あたし、牡丹に話したいことあるから来るまでここにいさせてください」って。

みさと それは言わないで欲しかった……あの、名無さん

名無 ええ、向こう行ってるわね。牡丹ちゃん 会える時に言いたいこと言わなきゃきつと後悔するね。私はね、あなたにそうなっ

て欲しくないの。

名無退場

みさと ねえ牡丹、聞いて。あたしはあなたのこと敵だなんて思っていない。

牡丹 嘘

みさと 嘘じゃない。

牡丹 どうせあの人から聞いてるんでしょう？ 私のこと。

みさと うん、どうして黒の清明についたのかも。

牡丹 なら敵よ。私は家族を殺した奴が嫌い、そいつが今ものうと生きているこの世界が嫌い。だから黒の清明に従って妖怪と

手を組んだ。そして妖怪を庇ってみさとの前にも立ちふさがった。敵以外の何者でもないね。

みさと でも悪い子じゃないよね？

牡丹 え？

みさと 牡丹は会ったばかりのあたしと一緒にタカ兄を探してくれた。未来からきたって話も信じてくれた。「みさととは友達に嘘を

つくの？」って言うてくれた。確かに妖怪はあたしにとって戦う相手だし、牡丹はその側の人間よ。でもあたしにとって牡丹は敵じゃない……友達よ。

牡丹 訳わからないね。敵側の人間なのに敵じゃないって。

みさと そう思っただもの、仕方ないじゃない。あたしは、友達にも自分の気持ちにも嘘はつきたくないの。

牡丹 ならどうするの？ 説得してあの人の所に連れ戻すの？

みさと わからない。でも、牡丹とは戦いたくない。

間

牡丹 私と戦わなかったらいいのね？

みさと え？

牡丹 ……ここから北に行った近江の湖の畔にさびれた寺があるね。そこはゆかりという鬼の隠れ家なの。そいつは黒の清明に命令されて未来から来たもう一人を探してた。そこならみさとの叔父さんの手がかりが見つかるかもしれない。

みさと ありがとう。でもどうしてそれを？

牡丹 叔父さんを見つけたらすぐ未来に帰って。そうすれば私と戦わなくて済むね。

みさと それはそうだけど、でもあたしが帰ったら京はどうなるの？

牡丹 あなたはこの時代の人間じゃない、本来はいてはいけない人。この戦いがどうなるうとこの時代の人間の問題よ。

みさと でも……。

牡丹 もし本当に友達だと思ってくれるのなら、未来に帰って。

牡丹退場

みさと 牡丹！（何を言っているかわからず追うのを諦めて） ……やっちゃん もう出てきていいよ。

八葉 あら、バシってたんだ。

みさと 修行の成果かな。あたしとやっちゃんとの間に靈力の糸みたいなのが見えるのよね。やっちゃんもそれ辿ってあたしを追いかけてきたんでしょ？ ありがと。

八葉 へ？ なんて？

みさと あたしが牡丹に会えるまで連れ戻さずに待っていてくれてたんでしょ。

八葉 まーね。いい男ってのは常に女心を待つものさ。

みさと 近江ってここから遠い？

八葉 マジ遠いよ 徒歩で行ける場所じゃない。でも
みさと でも？

八葉 霊力の流れが見える今のみさっちゃんなら 力を俺にちょっと分けてくれるだけで一つ飛びさ
みさと じゃあ行こう。

八葉 行くの？ でも罨とか……

みさと 齒あ食いしばれ（パンチ）！ 牡丹があたしに嘘つくわけないでしょ！

八葉 サーセン。まあダンナも探せて言ってたし、ほんじゃま行くとしますか。

みさと・八葉退場

ゆかりの隠れ家

貴之 （紙の束を見ながら）ふむふむ まあ「桐壺」はこんなもんだよな さて 次は……。

ゆかり ちょっと待ってくれ 休憩にしないか？

貴之 え～、まだ一章目じゃないか。……まあよく書いてると思うから 特別に休憩にしよう。

ゆかり 何だ偉そうに お前は私の先生か。

貴之 ああ 先生もやってるよ。

ゆかり 先生？ 学者だといったじゃないか。

貴之 それだけじゃ食えないから普段は先生をしてる。名前書けば受かるような女子短大だけだね。……あのさ、休憩ついでに質問

。あんた達は人間と戦ってどうしたいんだ？ まさか人間滅ぼすとか言わないよな？

ゆかり 妖怪が支配する世界を作る。だが、人間が最後まで抵抗するというのなら滅べばよい。

貴之 妖怪も鬼も人から生まれるのに、滅ぼすのか？

ゆかり 私達は永遠に生きるのだから、これ以上増える必要がなかるう。

貴之 永遠 ねえ。『望み通りにならないものはない』と詠った藤原家の栄華だってあと何十年かで終わるんだよ。その後来る武士

の社会もせいぜい七百年くらいだ。いつまでも続くものなんてない。

ゆかり それは人間の生が短いからだろう？

貴之 あんた達妖怪や鬼は長生きなのかもしれない。でもそれを誰に伝える？ 何百年生きようと何も残せないなら、その長き生に

意味はあるのか？ いいか、永遠に生きるなんてできない。ただ人間だけが永遠を残すことが出来る。

ゆかり 永遠を残す？

貴之 人の生は短く、人の世は儚い。だから人は自分達が何を思いどう生きてきたか残そうとする。源氏物語だってそうだ、昔の人

間も自分達と同じように悩み苦しむ愛してたってことをあの日中学生の俺に教えてくれた。残すものが居て、受け取るものが居る。それが続く限り永遠は残るんだ。……なあ、あんたはなんで妖怪になったんだ？

ゆかり　なんだ急に？

貴之　人間が妖怪や鬼になるのにはよほどの恨み辛みが必要なんだろ？　でもあんたにはそれがあまり感じられないんだ。むしろあんたはそんなに悪い奴じゃないんじゃないかって時々思う。

ゆかり　私が悪い奴じゃない？　侮辱する気か？

貴之　侮辱じゃない、あんた俺に色々やったけど怪我するようなことだけはしなかったじゃないか。

ゆかり　お前に話すようなことはない。……いいか、この話はもう仕舞だ。二度と聞いてくるな。

貴之　わかったよ、もう聞かない。……てっきり身分違いの恋に破れて、世を恨んだ末のことかなと思ったんだけど。

ゆかり　！　なぜわかった？

貴之　マジですか？

ゆかり　まさか、カマをかけたのか？

貴之　いや、この時代なら恋愛がらみか女官同士のいじめかなって思ってた。……なんか、ごめん。

ゆかり　……フン、笑いたかったら笑え。自分らしく生きようと出来なかった、お前の言葉を借りれば、今はそういう時代なのだ。

貴之　いや、笑わないよ、俺もつい半年前に「身分の違いゆえに」っぽいことあったから。

ゆかり　お前の時代は身分の違いがないのではないか？

貴之　その代わりどれだけ偉い役職についてるかとか財産を沢山持つてるかを問われるんだ。

ゆかり　何があったんだ？

貴之　まあ簡単に言うと、婚約者が浮気してたんだ。で、浮気相手の方が俺より将来有望なものだから彼女の両親から「お前が身を引け」って言われてさ。結局被害者のこっちが追い出されるみたいに婚約破棄だよ。

ゆかり　ずいぶんとひどい話だな。さぞや恨んだであろう。

貴之　そりゃあね、自分が打ち込んできたことを「金にならない」で切り捨てられた気がしてそれが悔しかったな。しばらくは荒れたし、なれるものならあんたみたいに人間辞めてたかもしれない。

ゆかり　それでどうしたのだ、そいつらに報いを与えてやったのか？

貴之　いいや、けじめとしてもらうものもらっておしまいにした。

ゆかり　それでお前はよかったのか？

貴之　いいことにしたんだよ。やりたいことやれてる今は十分幸せだし、その俺と人生共に出来ないって言われたのなら仕方ない。それに俺より怒ってくれる家族見てたら逆に落ち着いてくるんだよね。早まったこと出来ないなって感じで。

ゆかり　そうか、お前にも色々あったのだな。……しかし、その女も見る目がないな。お前は知識も豊富で仕事に誇りを持ってる。その上人の話を聞き自分の意見も言える。伴侶にそれ以上のものを求める必要などないだろうに。

貴之 もしかして 褒められてる？

ゆかり 褒めたら悪いかな。それより、今の話でお前の時代の恋愛に興味が沸いたから話せ。お前の時代の恋人達はどっという付き合いをしているのだ？

貴之 どういうって、結構この時代と変わらないよ。普段はメールっていつて文交わしたり。時にはデートしたり。

ゆかり デート？

貴之 二人でどこか遊びに行くんだよ。あんたらだって宇治に舟遊び行くだろ？

ゆかり 舟遊びをデートというのか？

貴之 いや、舟遊びそのものを言うわけじゃないよ。なんていうか……。

ゆかり 口で説明できないなら、今ここでしてみせる。

貴之 ここでどうやって？ 二人いないと出来ないよ。

ゆかり ここに二人いるではないか。

貴之 つまり俺達がそういう設定でデートのロールプレイしろってことか。

ゆかり そうだ、出来ないのか？ 出来ないなら、

貴之 はいはい、『やらないと殺す』でしょ。わかったよ。

ゆかり わかればいい。(去ろうとする)

貴之 どこ行くんだ？

ゆかり 化粧を直してくる。

ゆかり退場

貴之 化粧って……。

みさと (声) タカ兄 タカ兄

貴之 ン その声はみさと？

みさと うん (ブック) ここ開けて

扉を開けるとみさと八葉登場

貴之 みさと、どうしてここに？

みさと 友達が教えてくれたの、タカ兄を探している妖怪がここに住んでるって。来てみたら、奥からタカ兄の声が聞こえたから大丈夫。怪我してない？

貴之 それは大丈夫だけど、（八葉見て）どなた？

八葉 どうもー やっちゃんです。

貴之 みさと、友達はもちろんと選んだ方がいい。

みさと 友達なんかじゃないわよ、あたしの式神。ねえ聞いて、あたし今……。

貴之 知ってる、安倍晴明の弟子なんだろう？

みさと なんだ、知ってるのか。驚かせようと思ったのに。

八葉 みさっちゃん、悠長に話してる時間はないぜ。さっきの奴が戻ってくる。

みさと うん、やっちゃん、あたしとタカ兄乗せて飛べる？

八葉 その十倍でもいけるぜい！

みさと さあ、タカ兄逃げよう！

貴之 ああ。（行きかけて）……いや、ごめん、俺は行けない。

みさと どうして、助けに来たんだよ？

貴之 俺はここでやらないといけないことがあるんだ。

みさと やらないといけないこと？

貴之 詳しく説明する時間はないけど、俺がここからいなくなると歴史が変わってしまうんだよ。

みさと でも……。

八葉 みさっちゃん、もう時間がない。（貴之に札を渡す）あんた、そのやらないといけないことってのが終わったらこの札を破ってくれ、すぐ迎えに来る。

貴之 ありがとう。みさとを頼むよ。

八葉 任せてって、もう手取り足取り腰取り……。

貴之 式神も選んだ方がいいな。

みさと タカ兄、また会えるよね？ 絶対助けに来るからね！

貴之 ああ、ほら行って。

みさと・八葉退場

貴之 悪いな、みさと。

ゆかり登場

ゆかり 待たせたな で 何から始めればいいのだ？

貴之 まずは……待ち合わせかなあ？ 女の方がお洒落に気合入れたあまりに 電車一本逃すんだよ 大体五分か十分くらい遅れてくる

ゆかり そうか……こんな感じか？ 「遅くなった、待ったか？」

貴之 「いや、こっちも今来たところ」

ゆかり お前も遅刻して来たんじゃないか

貴之 違うよ、全然違うよ。相手が遅れてきたことを気にしない包容力がそう言わせてるんだよ

ゆかり そうか。で、ここからどうするのだ？

貴之 わかりやすいのは映画かなとか？ あれだ、猿楽とか雅楽の演奏とかを一緒に観る感じ。事前にお菓子や飲み物を買って並んで座る

ゆかり こうか？

貴之 そうそう。で、観ながら時々手を繋ぐ。

ゆかり 手を？ 破廉恥な！

貴之 でもするんだよ、恋人同士だから

ゆかり (貴之の手をとり) こうか？

貴之 いや、実際にやらなくてもいいんだけど……で、二時間くらい観たら映画館を出る

ゆかり 手はどうするんだ？

貴之 ……まあ、繋いだままとそうでないのと半々かな？ で、喫茶店に入ってお茶をしながらさっき観た映画の感想言い合ったりするんだ

ゆかり そのとき手は……。

貴之 そんなときまで繋いでるような二人は俺の時代ではバカップルと言われる。一休みしたら、ウィンドウショッピングとかカラオケとか行っていると夜になってきて晩御飯になる。今回はちょっと男が気合入れてコース料理なんか予約する

ゆかり 共に食事をとるのか？

貴之 うん。最初に果物で作ったお酒が出る。それが入ってる器をと打ち合わせて「ギミの瞳に乾杯」。

ゆかり 「ギミの瞳に乾杯」

貴之 いや、言うの男だけだから。食事が終わったら、酔い覚ましか。夜景が綺麗な場所を散歩するんだ。「ほら見てご覧、この夜景を！」

ゆかり 「ああ、とても綺麗だな」

貴之 「ギミの方が綺麗だよ」

ゆかり 私は平安人なんでよくわからないが、それはどうなんだ？

貴之 とにかくそんなことをいうんだよ。そしたら酔いもあってお互い少しずつ距離が近くなって寄りかかってきたりする
ゆかり ……そうか？

貴之 うん……で、だんだん言葉も少なくなってる……。

ゆかり で、どうした？

貴之 これ以上はよくない。恋人同士じゃないと駄目だ。

ゆかり 今はそういう設定だろう？

貴之 それはあくまで設定で……。

ゆかり さあ、この続きはどうなるのだ？

貴之 それは……。

ゆかり やらないと殺す。

貴之 後で怒らないでよ……目を閉じて。

貴之 ゆかりにキスをする。

ゆかり ！ ……今私に何をした！

貴之 何って、やれって言ったのそっちじゃないか！

ゆかり 殺す！

貴之 やらないと殺すからやったのに殺されるなんてわけがわからないよ！

ゆかり ならお前は殺すって言われたら誰にでもあんなことをするのか？

貴之 馬鹿言うな、あんたじゃなかったら脅されてもやらないよ！

ゆかり え？

貴之 え？

間

貴之 今俺何言った？ 今のって、……え〜！ いやいや確かに見た目はどっかいうとストライクだけど、単に他の妖怪だとちょっと嫌だなあとかそれくらいの意味だよな。でも、向こうはそうとってなかったらどうしよう。この痴れ物がつて殺されるかも……よし、今からでも「なんちゃって」とか付け加えよう。そしたら半殺し程度で許してもらえるかもしれない。（ゆかり）な〜ん……

ゆかり （じ……）

貴之 駄目だ、完全タイミング逃した

ゆかり 今言ったこと本当か？

貴之 え？ まあ、嘘は言っていない。

ゆかり 気付かなくてすまなかった、まさかお前が私をそう見ていたなんて。

貴之 ハハハハ……でも、気の迷いなんて忘れて頂けると

ゆかり たしかに私もお前を憎からずは思っているが。

貴之 ……へ？

ゆかり お前が悪いのだ、あんな話をするから、同じ傷を持っている同士だと知った上で今のうちに想いを伝えられたら私とて心が

動く。

貴之 あの、ゆかりサン？

ゆかり 私は妖怪でお前は人間、それでもいいのか？ 私の傷を笑わずに聞いてくれて、自分の傷を晒してくれたお前を信じてもいいのか？

貴之 ……（微笑む）妖怪とか人間とかそういうの関係なく、あんたはあんただからいいんじゃないかな？ ゆかりであり紫式部

あんたはそれでいいと思うよ。

ゆかり そう言ってくれるのか？

貴之 あんたはあの日俺の進む道を示してくれた女性だ。それだけでも俺にとっては大事な人だよ。

少し甘ったるい間

ゆかり なあ……さっきの続きをしてくれないか？

貴之 やらないと……やっぱり殺す？

ゆかり ああ……殺す。

影が重なる。

その様子を鬼童子が見ている。

暗転。

黒晴明達 ゆかりと鬼童子がいない。

法師 全員そろっていないようだが、よいのか？

黒晴明 どうも妖力が通じないのだ。まあ後で伝えればよい。それより、あれは見つかったか。
傘差 一言で言くと『ビンゴ!』って感じで。

首吊 妖魔王様の仰っていた通りの場所に隠してありました。

赤殿中 ちなみに警備は陰陽寮の陰陽師と検非違使(けびいし)が二十人程度。まあ余裕っすね。

白徳利 ところで、あれは一体? 何やら近寄りがたい霊力を発してましたが。

黒晴明 この京を守る結界の要石だ。

首吊 守る? 何から京を?

黒晴明 怨霊からだ。

白徳利 怨霊?

黒晴明 そうだ、怨霊だ。本当に恐ろしきは妖怪ではなく、人の怨念よ。

法師 この京は人の世の中心。権力を求めて醜い争いが繰り返される場所だ。故に争いに敗れた者達の怨念が渦巻く場所でもある。
お前達が見つけたのは人の怨念を鎮めるための結界だ。

赤殿中 はあ、でそれをどうするんで?

黒晴明 破壊し、怨霊を解き放つ。

傘差 そうしたらどうなるんです? サーセン、俺らちょっとピンとこないっす。

法師 解き放たれた怨霊は、殺され奪われた恨みを晴らすために生きているものを襲うだろう。京は混乱に落ちる。

黒晴明 そしてその怨霊を我が身に取り込み、更なる力を手に入れる。

傘差 要はこの土地に封じられた怨念怨霊食ってパワーアップってことっすかねえ。

赤殿中 そういつてくれたらいいのに、妖魔王様は話がまどろっこしい。

黒晴明 ……。

法師 しかし、本当に出来るのか? この地に眠る怨念は我らが思う以上に激しく深い。お前でも飲み込みきれるかどうかな。

黒晴明 そのための白の晴明の力だ。怨念を我が妖力で飲み込み、白の晴明の制御の力でそれを抑える。牡丹よ、そのためにもお前が白の晴明の弟子を打ち倒す必要があるのだ。

牡丹 はい。

黒晴明 解き放たれた怨霊の中には牡丹、お前の家族もいるだろう。呪い殺されし無念を晴らすために牙を向くだろう。それがお前の望みだったな。

牡丹 ですが私は、

黒晴明 わかっている、自分の手で復讐を果たしたいのだろう? だが、その無念も全て私の糧とさせてもらおう。その代わり、お前とその家族の恨み我が果たそう。だから、お前は自分の役目を果たせ。

牡丹 ……はい。

黒晴明 狸共よ お前達是要石を攻撃し破壊しろ。同時に法師と牡丹は白の晴明に攻撃を仕掛け戦力を分断させる。そして怨霊と白の晴明の力を共に我が飲み込み 完全な安倍晴明となる！

一同 おー！

黒晴明 この世界を我らが妖怪のものとするために！

一同 おー！

黒晴明 最強は

一同 俺達だ！

黒晴明 勝つのは

一同 俺達だ！

黒晴明 俺達は

一同 最強妖怪！

黒晴明 人間どもに すべてからく死を！

一同 おー！

首吊 ってちょーっとストップ！ スタアアップ！

傘差 ストップって何だよ？ 今すごいフュージョン？ 一体感あって盛り上がったのにさ お前マジ空気読めてないな

首吊 ちよっと妖魔王様 要石壊したら京の人間達はどうなるんですか？

黒晴明 怨霊に食われ 自らも怨霊になるだろうな

首吊 いいんですか それで？

黒晴明 何が言いたい？

首吊 いや、アタシがこの国を妖怪のものにするって聞いたとき 人間を支配してこき使うのイメージしてたんで皆殺しとかち

よっと違うくね？とか思ってた

赤殿中 あ そうそう。だから力貸すようにってボスに言われて阿波から来たんだっけ

首吊 それに今までだって白の晴明達と戦うようには言っても 人間を直接攻撃するような命令はされなかったじゃないですか？

なのに今度は皆殺しって……

傘差 まだそんなこと言ってるのか。これは戦いなんだぞ 戦いで相手が死ぬことの何がおかしい？

首吊 初めからそう言われてるならいいけど、なんか話違ってきてるから聞いてんじゃん！

白徳利 どっちも落ち着いてよ。

黒晴明 そうだな。話が違ってきているかもしれないな すまぬ ……しかし 無理もない。何しろ戦いを続けている内に気付いてし

まったのだからな 人間とはなんとくだらないものだとな

首吊 妖魔王様？

黒晴明 何も力もなく ただ短き生を送るだけの矮小な存在 そんなものに何の価値がある？ あるわけがない！ なら我が養分と

なり力となればいい！ この京の闇に鎮められた怨念に食われ、そして生まれた新しい怨霊を我が食らい我がそが京の闇そのものとなって、光すら食らい尽くす！ 命の価値などそれだけだ。いや、京だけじゃない全ての命を我が食ってしまおう。

牡丹 ……全ての命？

黒晴明 そうだ、それだけの力が我にはある！ さあ皆のもの行くのだ。そして殺せ、殺せ！

法師 おい妖魔王……晴明！

黒晴明 ……我は何を。

法師 少し興奮したただけだ、落ち着け。

黒晴明 ああ、そのようだな。鬼童子もゆかりもないのに、気が急いてしまったか。決行は全員揃ってからだ。一同、今は忘れ、てくれ。

一同 はっ。

黒晴明 法師そして牡丹よ、お前達は引き続き白の晴明らを、奴の制御の力を先に手に入れば余計な殺戮も作らずにすむ。

法師・牡丹 はっ。

黒晴明 首吊よ、我とて無用な犠牲は望んではない……はずだ。しかし、人間を打ち倒し我らが天下を作るためには奇麗事を言ってもらえないということをわかってくれ。

首吊 はい。

黒晴明 では行け。

一同 はっ。

一同退場

黒式神△ 大丈夫ですか？

黒式神△ すごい汗……。

黒晴明 触るな、消えろ！

手の一振りです式神達消える。

黒晴明 ……何故我はこんなに苛立っている？

鬼童子 思ったようにいかないから焦ってるんですよ、わかるよ。

黒晴明 鬼童子、どこに行ってたのだ。

鬼童子 ずいぶん辛そうだね あれ やってあげようか？
黒晴明 頼む

鬼童子 黒晴明の頭に両手をかざす。

鬼童子 段々頻度が上がってきてるね だからさっさとやつてちゃえばいいんだ
黒晴明 しかし 我の望みは……。

鬼童子 力が欲しいんでしょ？ 欲しいものは奪わなきゃ

黒晴明 ……そうだな

鬼童子 今日 面白いものを見たんだ 近いうちにお土産に持ってくるね 晴明

暗転

みさとと名無

名無 そう 見つけたのに帰れないの？

みさと はい 『やらないといけないことがある』って ウチの家系ってガンコなの多いから

名無 ガンコなのは裏を返せば譲れない信念があるってことよ みさとちゃんみたいだね

みさと あたし？

名無 牡丹ちゃんを待つためにここに来たみさとちゃん 梃子でも動かないって顔に書いてたもの

みさと え そうですか なにせ牡丹と話したくて必死だったから 恥ずかしいな

名無 誰かのために必死になることはちっとも恥ずかしくないね

みさと でも 必死だけじゃあどうしようもないですよ ね タカ兄も戻らない 牡丹にもあたしの言葉は届かない、何言っても
げればいいのかもわからない。

名無 そうね 頑張ったからって想いが実るわけじゃない、でも頑張らずに実る想いだってないのよ

みさと そんなことわかってます！ でもあたし頑張ったんです。この争いなんて関係ないのに無理やり連れてこられて修行して
戦わされて、それなのに初めて出来た友達はあたしのこと敵だって言うし帰ろうにも帰れないし、じゃあどうすればよかった
の？

間

みさと ……ごめんなさい。八つ当たりなんてかっこ悪いなあ、あたし。

名無 いいのよ。私こそ諦めたまま生き永らえているのに、みさとちゃんに偉そうなこと言う資格ないわね。

みさと 牡丹に言ってた、「言わなきゃきつと後悔する」ってことですか？

名無 ええ、遠い昔の話。昔過ぎて何を諦めてしまったのかも忘れてしまって、後悔だけが私の中に残ってる。行き場のない、喪失

感だけがここ（胸）にあるのよ。

みさと 思い出せないんですか？

名無 （頷く）本当に昔のことだから、……ねえみさとちゃん、あなたはどうしたいの？

みさと それがわからないんです。牡丹だって、あたしのことどう思ってるのか……。

名無 あの子もあなたと争いたくないんじゃないのかしら？

みさと え？

名無 「友達だと思ってるなら争わずに帰って」って言うのは、あの子もみさとちゃんのことを友達だと思ってるからじゃないの？

みさと ……やっぱりあたし、牡丹を止めたい。

名無 そう、でもどうやって？

みさと わかんないです。でもわからないから全部出すしかない、あたしがどう思ってるかって。

名無 伝わるというわね。でも余り危ないことはしないでね。

みさと はい！

八葉登場

八葉 みさっちゃん、また妖怪達が現れた！ それと……。

みさと 大丈夫、任せて。行こう！

みさと退場

八葉 ちょっと早！（名無を見て）どうも……なあ、あんたどこかで会ったことないか？

名無 そうかしら？

八葉 何か知ってる雰囲気なだけだな……て、みさっちゃん！

八葉退場 名無も歌いながら去る。

白晴明が狸達と戦いながら登場

白晴明 玄武の門、金剛石、司るは不屈の防壁！

攻撃を跳ね返す白晴明

首吊 驚いた。こないだ式神に任せて結界に箝ってたのとは大違い。

白晴明 ボクの代わりにみさとクンが八葉に靈力を注いでくれてるからね。今のボクならこれくらい出来るのさ。

赤殿中 それでもまあ、見たところ並の陰陽師より上程度ってとこじゃん。

白徳利 四匹相手にどこまで頑張れるかな？

白晴明 まあ、そこは知識と経験で cover？

茶飯事さ。 まったくシブいねえ オタク。でもさ、

法師・牡丹登場

傘差 四匹だけじゃないんだな、これが。

白晴明 牡丹……ずいぶん雰囲気が変わったね。

牡丹 ……そちらも、私に戦うことを禁じてたあなたが、年端も行かない娘を自分の代わりにしてるんだもの。

白晴明 返す言葉もない。で、くだらない復讐なんかやめてさ。そろそろ帰ってこないかい？

牡丹 あの光景をあなたも見ただけなのに、それでもくだらないって言うの？

白晴明 「復讐は何も生まない」なんて奇麗事は言わない。復讐は何かを生むためにするんじゃない。思いを断ち切り前に進むため

にやることだからね。でも、今のキミは自分の人生をただ怨んでるだけだ。仇をとったところでどこへも思いが進めないキ

ミの復讐はくだらないね。

牡丹 このっ……！

法師 師弟の戯れはそこまでにしておけ。白の晴明よ、おとなしくその力、我らが盟主に差し出せ。無駄な苦しみは与えないことを

約束してやる。

白晴明 優しいねえ。だが、断る！ 牡丹、キミの言うように今のボクは女の子を矢面に立たせているマンモ―二さ。だからこそ

せめて最後までこの京を守るという自らの役目だけは全うさせてもらう！

法師 そうか なら誇りと共に散れ (狸達に) 死なねばよい、徹底的にやれ！
狸達 応！

白晴明 よーっし、かかっておいで キミ達の相手はこの……ウチの弟子がやってくれるから！

飛んできた感じでみさと・八葉登場

みさと 見得切っておいて人任せ？

白晴明 自慢じゃないがこの人数は無理！

八葉 そんな正直なダンナ、俺嫌いじゃないぜ(ε・ε)ダッ

白晴明 (ε・ε)ダッ

みさと 二人は狸達をお願い。あとは……あたしに任せて！

白晴明 いいのかい？

みさと いいも何も任せられないし。

白晴明 ……すまないね 八葉！

八葉 オウケーイ！ タヌちゃん達 こっちだ～！

白晴明・八葉 狸を引き連れて退場

牡丹 ……友達と思ってるなら帰って そう言っただよね

みさと うん 友達だと思ってるから 牡丹を止めにした。

牡丹 あなたも晴明のように私の復讐をくだらないって言うつもり？

みさと ううん でも牡丹が、あたしの友達が憎しみで前が見えなくなってるのが、ただ哀しいと思う

法師 知り合いか？ ならこの娘 私の前で倒して見せる。人の世のしがらみを全て断ち切るのだ。

牡丹 ……はい！

牡丹からの一方的な戦闘

牡丹 何も奪われない、何も傷つけられない世界の人間が邪魔をしないで！

みさと それでも友達が間違った道を進むなら止めたいのよ

牡丹 私の苦しみも知らないくせに。

みさと 想像は出来るね。きっとあたしも牡丹のように両親やタカ兄を殺されたら、きっと怨むと思う。牡丹のように仇を討とうとすると思う。でもあたしがそうになったらきっと友達は止めてくれる。だからあたしは牡丹を止めるの！

牡丹 私は友達なんかじゃない！

みさと でも戦いを避けようとしてくれた！

牡丹 戦力を削るための策略よ、まさか信じたの？

みさと 信じるわよ、あたしは牡丹を信じる。

牡丹 信じる？ なら私のこの怨みを、無念をどうにかしてくれるっていうの？

みさと あたしが受け止める。友達のあたしが、全部！

牡丹 いつかは自分の時代に帰ってしまう人間が無責任なことを言わないで！

みさと それでもずっと覚えている、牡丹のことを。

牡丹 え？

みさと たえ千年未来に戻ったとしても、あたしはずっと牡丹のことを覚えてる。この時代に頑張った子がいたって、牡丹が頑張ってくれた明日があたしの今日なんだって。そしたら二十一世紀のあたしと平安の牡丹は繋がっていられる。一緒にあたし達の明日を迎えられる！

牡丹 みさと……。

みさと 牡丹、あたしはあなたと明日を迎えたい。帰ろう、一条戻り橋の屋敷に。

牡丹 私は……。

みさとが手を伸ばしたその瞬間

みさと きゃっ！

牡丹 法師様！

法師 娘一人も殺せないとは、お前の怨念もその程度であったか。もうよい。こいつは私が始末する。

牡丹 しかしこいつは私が……。

法師 任せられないからそう言った。それともここで見てるか、お前の甘さゆえにこいつが我が手で無残に殺されるところを、どけ（牡丹を乱暴にどける）、

みさと 牡丹に何するのよ！

法師 吼えるな小娘。何が一緒に明日を迎えたいだ、お前たち人間に明日などない！

法師の一方的な攻撃に苦しめられるみさと

みさと あたしは明日を頑張るの、牡丹と一緒に！

法師 なら朝日はあの世で迎えるんだな。牡丹よ見る、これがお前の未練だ！

みさと (苦しむ)

牡丹 みさと……我、汝の侵略するを禁ず！

法師の攻撃が止まる

法師 何の真似だ？

牡丹 ……ないで

法師 何だ？

牡丹 私の友達に手を出さないで！

みさと 牡丹……。

法師 所詮は人間、所詮はあの男の弟子な。今更に取り繕っても、怨みに染まり邪法の術を身に付けたことが消えるわけでもないのにな。

牡丹 それでも、今の気持ちを裏切る方が嫌。明日をあきらめるのは嫌！

法師 そうか。なら躰が必要だな。何、屍を辱め魂を怨霊に堕とし込めば考えも変わるだろう。

みさと 何言ってるのよ、このネクロフィリア！

法師 (みさとを吹き飛ばす)

牡丹 みさと！ 我、汝の腕を振るうことを禁ず！

法師 (はじき返して) 牡丹、その術を誰がお前に教えたと思っている？ そこまで仲がいいのなら仲良く送ってやる。

みさと 牡丹、一人一人じゃ駄目、一緒にいくわよ！

牡丹 (うなずく)

法師対みさと・牡丹

法師 うっとうしい蚊虻蛉どもめ、一気に始末してくれる。火の剣、神の腕、握るは我が意思……。

牡丹 あれを唱えさせたら駄目！

みさと うん、破魔の弓！

法師 我、我が身の領域を侵すものを禁ず！

結界を張られる

法師 馬鹿め、式神の補助のないお前の弓などその程度だ。我は望む、振りかざされる殺戮を……。

みさと こうなったら逃げる？

牡丹 あれはこの周囲一体を焼き尽くす術。私達が逃げられてもここが火の海になるだけ。

みさと ならどうしたら

牡丹 もう一度、あいつを撃って。今度は私も力を貸すから

みさと 力を貸す？

牡丹 忘れた？ この弓は元々私が使うはずだったのよ

法師 小細工の打ち合わせは済んだのか？ こっちはもうすぐ術を完成させるぞ

牡丹 いい？

みさと うん

二人で弓を構える

みさと わかる、牡丹の霊力が入ってくるのが

牡丹 私が二人の力を合わせる。だから狙いを付けて

法師 何だその霊力の高まりは？ 小娘二人だけで信じられん！

みさと あんたが信じようと信じまいと、あたしは牡丹を信じる。その想いがあんたを撃つ！

牡丹 今！

撃つ。

法師 馬鹿な——！（倒れる）

みさと ふう……やったの？

牡丹 うん。みさと、その……。

みさと ありがとうね

牡丹 え？

みさと 助けてくれて

牡丹 お礼なんていい……友達 でしょ？
みさと ……うん！

白清明・八葉登場

八葉 法師の霊圧が消えて狸達が逃げたから戻ってきたんだけど……って 法師倒れてる！

白清明 これはキミ達が？

みさと そうよ それと（牡丹に）ほら

牡丹 その私は……

白清明 キミのことを思いやるのが出来なくて、すまなかった。身を守る術より、もっと先に教えるべきことがあったのにそれが出来なかった。それは多分、キミの家族を救えなかった罪悪感から、ボクが目をつらしてたからだと思う。本当にすまない。

牡丹 そんな、悪いのは清明いや先生じゃなくて私なんです。

白清明 そうか悪いのはキミか。ならペナルティを課さないかね。当分食事当番はキミだ。今ウチで飯作れる人がいないんだよね。

八葉 みさちゃん釜戸使えないし。

みさと どうせ電子レンジしか使えないわよ。

牡丹 ……まったく、あなた達は緊張感のない……

みさと そのあたし達の中に、これから牡丹も入るんだよ。さあ、帰ろう。

牡丹 うん。

法師 うーん……あれここは？

一同身構える

法師 （起き上がり）一体何が……（白清明に気づき）あれ、清明先生じゃないですか？

白清明 誰？

法師 やだなあ～、僕ですよ僕。前に一度勝負したじゃないですか。

白清明 だから、誰？

法師 そんなに印象薄いかなあ……僕、芦屋道満です。

一同 ……芦屋、道満？

暗転

ゆかりの隠れ家

ゆかり ……出来たぞ

貴之 ああ全五十四帖 一気に書き上げちゃった……完成だ

ゆかり これが私の物語か。しかし思ったのだが、これをお前が読んで、それを聞いた私が書き上げる。そして未来でお前が読んで……元々の物語はどこから来たのだ？

貴之 それは……まあいいじゃないか、これはあんたが自分の言葉で書いた、あんたの物語だ。

ゆかり その、あんたではなく名を呼んでくれまいか。

貴之 ああ、その、ゆかり？ (照れたりとか) いやなんか、変な感じだな。平安時代にタイムスリップしたら妖怪に捕まって……学者仲間に言っても信じないだろうな。ところで、これからどうするんだ？ そもそも源氏物語を話し終わったら連中に俺を引き渡すはずだったんだろ？

ゆかり お前は意地悪を言う。こうなったお前を今更引き渡せるか。それにお前を探して引き渡す役目は消えた。そろそろ次の役目が来るはずだ。

貴之 そうか。それでまた妖怪の世界を作るために働くのな

ゆかり ああ、恐らくお前の姪御とも戦うことになる。

貴之 それなんだけどさ、やめるわけにいかないのか？ ゆかりだって人間全体が憎いってわけじゃないだろう？

ゆかり やめるって戦いとか？ 今更私だけ抜けることなんて出来ない。

貴之 この戦い自体やめるわけにいかないのかってことだよ。前も言っただろう、人が妖怪や鬼を生む。そして人はそこから教訓を学ぶ。本来、人と妖怪は持ちつ持たれつなんだよ。元は人間だとは言え、ゆかりと俺は分かり合えた。人間と妖怪も分かり合えるんじゃないかな。

ゆかり 貴之……。

貴之 なんてな、本音は単にゆかりとみさとが戦うのを見たくないって俺のエゴなんだけどさ。

ゆかり 正直なのだな。

貴之 でも戦いを辞める理由なんてそんなもんだろう？ 大事な相手に傷ついて欲しくないって、人と妖怪がそうなれば戦う理由はないじゃないか。

ゆかり それはそうだが……。

貴之 例えば、これ (源氏物語) を読んでもらう。人間が語って妖怪が書いた物語をみんなが喜んでくれたらそれは互いを認める切っ掛けにならないかな？

ゆかり 読ませる？ 駄目だ駄目だ……恥ずかしい。こんなの見られたら笑われる。

貴之 これがベストセラーになることは未来が保障してるよ なあ ゆかりはどうしたいんだ？

ゆかり 私は……そもそも自由に生きられなかった無念が私をアヤカシにした。そして今私は満たされている。なら この戦いは意味があるのかと迷ってる。

貴之 ならやめさせよう。ゆかりにとってだけじゃない。この戦いそのものに意味なんてないんだ。これならきっとそれをとめることが出来る。

ゆかり ……わかった。出来るだけのことをしよう。
貴之 ああ。

コンコン。

貴之 もしかしてみさとの奴かな？ 黙ってたけどこないだ訪ねてきたんだ。開けに行こうとする)。あれ……足が動かない。
ゆかり 貴之！

飛び込んできた鬼童子、ゆかりを斬る。

ゆかり 鬼童子、貴様……。

鬼童子 人間を匿ったことを隠してただけじゃなく、戦いをやめされる？ 裏切り者の当然の報いだよね。(貴之に) 君もだよ。余所者が知らない癖に何が「この戦いそのものに意味なんてない」だ。ふざけるな(殴る)！ こいつは晴明様のところに連れて行くよ。

ゆかり させるか！

鬼童子 (もう一度斬る)

貴之 ゆかり！

鬼童子 黙れ(殴る)！ せいぜい奴等を釣る餌になってもらうよ。

貴之 倒れながらもポケットからお札を出して破る。

暗転

一方のみさと達

法師 というわけで 首をはねられた後気がついたら妖怪になってたんです。

白晴明 そっかあ、大変だったね

みさと 軽いわねえ。大体、自分の嫁さん寝取った上に呪い殺してきた相手の顔を覚えてないなんて、あんただけ適当なのよ？

法師 はっ、考えれば僕は晴明先生に何てことを……こうなったら腹を切ってお詫びを。

白晴明 こっちこそ覚えてなくてごめん、呪術勝負をしたのは覚えてるんだけど、それにキミ、これまでと今とで全然キャラ違うんじゃない？ だからピンと来なかったんだよね。

法師 そのことなんですが、今までの僕は僕であって僕でないような……。

みさと もう、ちゃっちゃと喋る！

法師 はい、先生との呪術勝負に負けた後自棄酒飲んで山に籠ったんです。そのときにどこからともなく「力が欲しいか？」とか声が聞こえて、つい「欲しい、今度は勝ってやる」って答えたら、なんか頭がぼんやりしちゃって……。

牡丹 負けた悔しさに付け込まれて、操られてたってわけね。

八葉 みさちゃん達に一度倒されたことでその術が解けたのか。

法師 操られたっていつても、行動を強制されたというよりそう振舞うことが当然だという思いに突き動かされた感じです。だから自分が何やったかは覚えていますし、先生だけじゃない君達にまでひどいことしたのはやっぱり僕なんです。本当にスミマセんでした！

白晴明 ……まあ、こっちも結果として死なせて人間やめさせちゃったわけだし、イーブンにしとこうよ。

法師 そんな……ありがとうございます！

みさと ちょっと、あんたはいいかもしれないけど、あたし達だって殺されかけたのよ。それまでイーブンなんかにはしないからね。

牡丹 みさと

法師 わかりました。この罪はどんなことでも償います。

みさと いい心がけね……あんた、味方になりなさい。

法師 へ？ ……元より罪滅ぼしのために加勢はするつもり、わかりました。

みさと うん。あとはこう晴明の鬼畜攻め×罪悪感ゆえに拒めない道満なんてのが見れたら……。

法師 晴明先生、あれは新しい呪文なんですか？

白晴明 世の中知らない方がいいこともあるよ。

牡丹 それより、あなたを操っていたのは誰なの？

八葉 そうだ、そいつのせいでダンナが二つに分かれたようなもんだ。

牡丹 それに首を刎ねられたこの人を妖怪にしたのも多分そいつ。

法師 わかりません。ただ、これは関係ないことかもしれないませんが、妖怪になって目覚めたときに最初に見たのが鬼童子なんです。それと、「力が欲しいか」って声、子供の声みたいだったような……。

一同 そっか……って、犯人そいつじゃん！

法師 ええ、そうなんですか？

みさと 会ったことないけど童子ってくらいだから、子供なんですよ？

牡丹 ええ、ただ見た目と違って妖怪達の中でもかなり好戦的な性格をしてるね

法師 確かに。君（みさと）とも戦いたがってた。

白晴明 なるほど、間違いないかもね。しかし、何のために？

八葉 ん？ ちょっとまって……みさっちゃん、叔父さんがお札を破った。呼んでる。

白晴明 叔父さん、見つかったの？

みさと うん、でもやることがあるから帰れないって言われて

八葉 なんかわかしい。反応が京に近づいて来てるんだけど、移動の速さが人間の動きじゃない。

みさと まさか、タカ兄の身に何かあったってこと？

白晴明 行こう。何かやな予感がする。

みさと うん。牡丹、一緒に来てくれる？

牡丹 ええ。

法師 僕も行きますよ。

一同退場

妖怪達のアジト。

赤殿中 ……どうするよ？ 法師までやられちゃったけど。

白徳利 つかあの牡丹っての結局人間側についたみたいじゃん。秘密兵器の終了のお知らせ。

傘差 何弱音はいてるんだよ？ なら尚更俺達が頑張らないといけないんだろ？ 法師の敵討ち、裏切った牡丹の粛清も。

赤殿中 それ、俺らがやらないといけないことか？ もう見切りつけて阿波に帰っちまおうぜ。

傘差 馬鹿言ってるんじゃないよ、俺は帰らないぜ。最後までやってやる。

首吊 傘差、こないだからなんかおかしいよ。阿波にいたころはそんなじゃなかったじゃない。

傘差 おかしいって何がだよ、俺は俺だ。

首吊 じゃあなんでそんなに戦おうとするの？ まるで血に飢えてるみたい。

傘差 血に飢えてる？ 俺はただ……なんでこんなに苛ついてるんだ。

白徳利 あれじゃね？ この土地が悪いんじゃないかな？ 言ってたじゃん、この京は怨念怨霊を鎮めた土地だって。鎮めても滲み

出てくる何かの影響してるとか。

首吊 確かにここに来てから時々何か感じるときがある。至る所に暗い何かが潜んでる気配が。もしかするとあんたがいう通りかも

しれない。ねえ傘差。阿波に帰ろう。こんな争いなんかほっといて。また人間からかう楽しい生活に戻ろうよ。

傘差 ……そうだな。よしこうなったら

鬼童子 こうなったら何？

鬼童子登場

鬼童子 まさか敵前逃亡？ いけないんだ。そうはいかない、キミ達にも最後まで踊ってもらおうよ。

傘差 やるぞ、いくら妖魔王のお気に入りだからって四匹がかりでやれば

四匹 鬼童子を囲み襲おうとするが、首吊以外三匹動かない

首吊 みんな？ まさか……。

鬼童子 たいしたもんだ、全員一度にかけたのに。(指鳴らす。三匹首吊りを捕らえる) さあ、キミも踊り子になるんだよ。さあ踊り子がそろったことだし、殺戮を始めような。

黒晴明 何をしている？

黒晴明登場

黒晴明 誰が狸共を術で縛れと言った？ 勝手は許さん。

鬼童子 逃げようとしたのはこいつらだよ。そうだ晴明様、手土産をもってきたよ。ゆかりが隠してた。もう一人の未来人さ。

黒晴明 それでゆかりはどこにいる？

鬼童子 始末したよ。僕が連れていこうとしたのを逆らったからね。

黒晴明 お前はまた勝手なことを！

鬼童子 アハハ、いいじゃないか。晴明様には僕だければいいんだ。

黒晴明 いいからお前はこいつらの術を解け、私の支持あるまで勝手は許さん。これは命令だ！

鬼童子 命令？ アハハ、無理だよ。晴明様は僕に逆らえない理由がある。

黒晴明 理由？

鬼童子 そうだよ。僕はあなたの本当の望みを知っている。白の晴明が守る人間の世界が憎いんだろう？ 二つに分かれて、自分が

闇に追いやられたことが許せないんだろう？

黒晴明 ……ああ、そうだ。

鬼童子 僕が、僕だけが晴明様の味方だよ。僕は貴方の気持ちがわかる。だから、晴明様にも僕の気持ちをわかって欲しいんだ。

黒晴明 ……わかった。お前の忠心を認めよう。疑ってすまなかった。

鬼童子 いいんだよ。さあこの京を怨霊で満たし、白の晴明を食らおう。そして生きている全てを焼き尽くそう。

暗転

向かってるみさと達

白晴明 連絡が入った。結界の要石に妖怪が攻めてきた。

みさと こんなときに？ つか要石って何？

法師 この京で恨みを持ったまま死んだ人間の魂を鎮める結界を守る石です。やつら、あれを壊して怨霊を解き放ち黒の晴明が我が身に取り込んで力を手に入れるといっていました。

白晴明 取り込む？ そんな馬鹿なこと出来るはずがない。

牡丹 黒の晴明の持つ妖力と白の晴明の持つ力の制御があれば、それは可能だって。

白晴明 ボクが制御できるのは、あくまでボクの半身である黒の晴明の力だけだ。大体もしそんなことが出来るって言うのなら、とつきの昔にやっている。この地に鎮められた怨霊は誰かの意思で思うように扱えるようなちやちなもんじゃない。

みさと じゃあ、結界壊れたらどうなるの？

白晴明 黒の晴明は食いきれなくなって内側からパンク、そして怨霊は全ての生きるものを食らう。人間も妖怪も区別なくね。

みさと っていうことは、あいつら自分達も死んじゃうのにそんなことしようとしてるの？

白晴明 そういうことになるね。でも、そんなことになることをもう一人のボクである黒の晴明が知らないはずがない。

八葉 みさちゃん、まずいよ。叔父さんに持たせたお札の反応がその結界に向かってる。

みさと ……まずくはないわ。むしろラッキーよ。目的地が一つになったんだから。

白晴明 「みさとクンの叔父さんを助ける」「結界も守る」。両方やらなくっちゃあならないってのが辛いところだけだね。覚悟は出来てるさ。

牡丹 じゃあ早速……危ない！

赤殿中・白徳利が襲い掛かってくる。

赤殿中 ここから先は行かせない。

白徳利 白の晴明だけ置いて去れ

みさと そう言われてはいとか言うと思う？ そっちこそどきなさいよ！

法師 ここは僕に任せて 皆さんは先に なあに こいつらを片付けたら後を追いかけますよ 先生 一段落着いたらまた勝負受けてくれますか？

白晴明 わかった。行こう！

みさと ちよつと、いいの？ あの人全力で死にそうなこと言ってるわよ？

牡丹 みさと、行こう。無駄にしちやいけない。

法師 牡丹さん、あの時「友達に手を出さないで」って叫んだ気持ちを忘れないように。あなたなら大丈夫。なにせ僕の弟子でもありますから。

牡丹 はい、ありがとうございます。

一同退場 法師は狸達を反対側に押しやって退場
入れ違いに名無登場

名無 そこにいたのね。行かなきゃ。

名無退場

傘差・首吊・鬼童子登場 遅れて黒晴明登場

黒晴明 戦況はどうなっている？

鬼童子 検非違使は排除したよ。残りの陰陽師は奥で立てこもってる。あれは連れてきてくれた？

黒式神によって貴之が運ばれてくる。

黒晴明 さすがにあの娘の血縁だけあって多少の霊力を感じる。

鬼童子 よかったね。合格だ。晴明様が結界を破壊するための力の一部になってもらうよ。

貴之 何だと？ お前そんなことのために俺を捕らえて、その上ゆかりを！

鬼童子 ゆかりゆかりってそこまで大事なものかなあ？ 人間と妖怪だよ。気持ち悪い。ただの刷り込み。気の迷いでしょ？

貴之 そんなことはない。俺たちは分かり合えたんだ。

鬼童子 (貴之を掴んで) 分かり合えたとか気安く言うなよ！ お前に何がわかる？ 心なんて一番あやふやなものをわかったところ

ろで何の意味がある？ 言ってみるよ！

黒晴明 よせ、それ以上やれば死ぬぞ。

鬼童子 魂さえ残ればいいだろ？ ……わかったよ、ならさっさとやってよ。こいつイライラする。

黒晴明 ああ（實之に近づこうとするが）……来たか。

みさと達登場

八葉 悪漢ども、そこまでだ！

みさと タカ兄、今助けるから！

白晴明 どうやら間に合ったようだね。……キミは自分が何をしようとしているのかわかっているのか？ 怨霊を解放すれば京のい

やこの国全ての命を食らい尽くされる。それを制御するだなんて、たとえボクの力を手に入れても不可能だ！

黒晴明 お前という小さな器から解き放たれた我にそれが出来ない？

白晴明 ああ、ボクにはわかる。キミも同じボクだからな！

黒晴明 黙れ！

みさと 説得は無駄よ、やっちゃおう！

牡丹 みさと、私達で黒の晴明を。

白晴明 待って。なあ黒の晴明、ここは一對一とじゃないか。僕が負ければ、みんな大人しく降参しよう。その代わりそっちが負ければこの結界はあきらめて帰ってくれ。どうだい、そっちだってこれ以上抵抗されて損害を増やしたくないだろう？

みさと 勝手に決めないでよ。大体自分で戦えないからあたしを呼んだんでしょ？

白晴明 ああ、そうさ。でもそれはやっぱりいけないことだったんだよ。この京を守るのはボク、キミ達を巻き込むべきじゃなかった。せめてここでそのけじめを取りたいんだ。

八葉 二人とも、ここはダンナに任せてやってくれないか？

みさと ……勝てるのよね？

白晴明 我に必勝の策ありさ。どうだい、黒の晴明？

鬼童子 こっちにその条件を飲むメリットがどこにあるのさ。

黒晴明 いいだろう。

鬼童子 晴明様！

黒晴明 よいではないか、勝利の前の一興だ。それとも我が負けるとでも？

鬼童子 わかったよ。（狸達に）ほら下がって。

白晴明 キミ達も離れて、巻き込まれないように。前に言っただろう？ 術の知識とコントロール技術はボクが持ってる。つまりあ

いつはパワーはあるけど、その加減が出来ないんだ！

黒晴明の一方的な展開の一騎打ち
白晴明倒れる

黒晴明 何が必勝の策だ。力なく守るという傲慢さと思慮の浅さを怨むがよい！

白晴明 それでも、守ると決めた！ キミ、いやお前だってそうだろう！ 一つだった頃のボクは、そのために光と影、陰陽の境界に踏みとどまり人の世を守ってきたじゃないか。

黒晴明 お前はそれでいい、しかし妖怪の我はどうなる？ 自分が陰でどう言われてきたか知らないわけではないだろう？ 化け物と、妖怪混じりといわれ恐れ目の見られていたではないか。さあ、我に屈服しろ。そしてこの世界を支配する糧となれ。

黒晴明 白晴明に近づくと、それを見逃さずに黒晴明にしがみつくと白晴明

白晴明 (懐から札を取り出す)

黒晴明 それは自爆の式札！ 貴様、もしかして初めからこれを狙って！ 離せ！

白晴明 いくらキミでも、この枚数同時に起動すればただじゃすまないだろう？

みさと 晴明！

牡丹 先生！

八葉 二人とも伏せて！

白晴明 朱雀の門、稲光、司るは爆熱！

閃光と、爆音、沈黙。

白晴明を抱えている黒晴明

白晴明 あれ、札の数足りなかったか……。

黒晴明 いや、さすがに危ないところであった。

白晴明 まあ最悪ボクだけでも死ねば、怨霊の力を扱えないからあきらめてくれるかな？

黒晴明 何故だ、何故ここまで出来る？ 半妖の我らを愛さぬこの世界を守るなどと！

白晴明 この世界に許容されていないとか関係ない、大事なのはボクがこの世界を愛しているからさ、それに約束したんだ、遠い昔に、キミ、憶えていないかな？

黒晴明 貴様が憶えてないものを我が憶えているわけがあるか？

白晴明 それもそうか。ねえ、頼みがあるんだ。これで安倍晴明は一人、キミの望みは適うんだ。だから、ボクの代わりに京を守ってほしいんだ。ボクが愛した、キミも愛しているはずのこの都を……。

みさと 嘘でしょ、晴明！

八葉 ダンナ！

牡丹 先生！

黒晴明 (白晴明を殴る)

白晴明 痛っ……生きてる！

黒晴明 当たり前だ、爆発から貴様ごと我が身を守ったのだからな

白晴明 なんて？

黒晴明 わからん、咄嗟にやってしまった。しかしお陰で思い出したことがある。貴様が我にしたことだ。なあ鬼童子よ。

鬼童子 そうか、爆発の衝撃で暗示が解けたんだね。

みさと 黒の晴明まで操っていたの？ 芦屋道満みたいに？

鬼童子 さすがに完璧にはかからなかったけど、でも白の晴明に対するコンプレックスを刺激して、悪霊を自分が制御できると信じ込ませることさえ出来れば十分だったよ。

黒晴明 そうだ、貴様は私の心の付け込み背中を押したに過ぎん

振動 そして禍々しい叫び声。

みさと 何これ？ 地の底から響くような声。

八葉 やばいよやばいよ、鳥肌立ってきた。

牡丹 まさか！

実は一騎打ちに時点で消えていた傘差と首吊登場。

傘差 鬼童子様、要石を破壊してきました。

首吊 結果そのものも消滅するのも時間の問題。

みさと ちょっと一騎打ちの決着着く前に破壊するなんてルール違反よ！

鬼童子 一騎打ちを受けたの黒の晴明で僕じゃないよ。

白晴明 急ごう。今ならなんとか封印が間に合うかもしれない。

鬼童子 行かせないよ

傘差・首吊立ちふさがる

鬼童子 さあ 今から一緒に踊ろうよ 怨霊相手に滅びの舞踏を まず手始めに……そいつ（貴之）からやっちゃおうな
みさと タカ兄！（黒晴明に）捕まえてるのあんたの式神でしょ？ タカ兄を返してよ！

黒晴明 え？ ああ……戻れ！（笛を吹くが黒式神動かない）何故動かない？

鬼童子 貴方の式神を奪うのはとても簡単だったよ……なんたって、僕も晴明だからね！

牡丹 晴明？ どういうこと？

白晴明 キミもボク？

黒晴明 貴様にはわからないのか？ あやつの術から解けた今、我にはわかる あやつは……半妖ゆえに苦しみ この世界を呪っ

た 子供の頃の我らだ！

八葉 子供時代のダンナあ？

牡丹 二人じゃなくて三人に分かれてたってこと？

みさと 子供の頃の安倍晴明がどうしてこんなことをするのよ？ 人間も妖怪も死んじゃうのよ？

鬼童子 いいじゃないか全て滅んでしまえばいいんだ。そうすれば人間だからとか妖怪だからとか悩まなくてすむ。光があるから影

が生まれ 光と影があるから争いが生まれる。なら全てなくなるのが真の平等じゃないか？ その何がおかしい？

貴之 そんなのは平等じゃない。相手と自分が違うってことは反発を生むかもしれない。でも違うってことは相手を知りたいって事
だ。

鬼童子 お前には聞いてない！ こいつらを食い止めるためにその霊力 頂くよ。

鬼童子 貴之に近づく。

そこに割って入ったゆかりに 黒式神 鬼童子斬られる

貴之 ゆかり どうして？

ゆかり どうやら間に合ったみたいだな（倒れる）。

鬼童子 驚いた、あの傷でここまで来れるだなんて。でも 限界のようだね。無理しなければ少しでもその命永らえることが出来た
のに。

ゆかり 黙れ そばに誰もいない生など、一瞬も生きてないと同じだ！ 貴之 残すものがいてそれを受け取るものがある、それが
永遠だったな。ならこんな馬鹿な女がいたことも受け取ってもらえるならそれも永遠になるのか？

貴之 いい、しゃべるな

ゆかり いや、それはさすがに恥ずかしいか……（息絶える）。

貴之 ゆかり？ ゆかりー！

鬼童子 残るわけじゃないじゃないか。この世界は消える、僕も含めてね

法師 先生！ 狸達が消えたんで追いつきました。

法師登場

みさと あれ？ 生きてた。いやいや生きてていいんだけど。

牡丹 道満先生、結界が……。

法師 ええ、地の底から怨みの念を感じます。

鬼童子 さて、みんなを止めようという矢先に余計な怪我をしちゃったよ、養分とらなきゃ。

奥から赤殿中・白徳利登場

傘差 お前ら無事だったのか？

鬼童子 さあ、最後まで役に立ってもらうよ（妖力を吸い取る）。

首吊 赤殿中、白徳利！ 鬼童子様一体何を？

鬼童子 足止めにもならない雑魚なんだから、これくらい役に立ってもらわないとね。

首吊 しかし、

鬼童子 もちろん君達もね。

傘差 俺達も？ うわあ……！

鬼童子 狸達の妖力を吸うと捨てる。

みさと ひどい、仲間じゃなかったの？

鬼童子 仲間？ 冗談じゃない、僕は人間でも妖怪でもない半端者だよ？ そんな僕に仲間なんていない。こんなものかな？ さ

あ、始めよう。僕は結界が壊れるまで君達を食い止める、キミたちは僕を倒して奥に進み結界をどうにかする。シンプルな対決さ。

白晴明 念が強くなってきている、全員でいくよ。（黒晴明に）いいね？ 結界が完全に壊れたらどうにも出来ないこと、さすがに

今のキミにはわかるだろ？ 人間と妖怪 キミとボクの対立だって世界があつてこそさ。

黒晴明 それはそうだが、これまでいがみ合ってたのに今更……。

みさと えーい、煩いわね！ 今までの禍根とかいってる場合じゃないでしょ！

黒晴明 ああ、うん、ごめん

みさと それにさっきの見て思ったの。あんた力のコントロール出来ないはずなんですよ？ ならなんで白の晴明と一緒に爆発から

守るなんて器用なこと出来たのよ？ 答えはシンプルに一つ、あんた達と一緒に協力すると上手くいくのよ。

白黒 力を合わせる？

みさと そう、二つになったものは一つにならないといけない。体が二つでも目的は一つ！

白晴明 わかった、やってみよう。

黒晴明 しかしそう上手くいくものか？

みさと 文句言っていないでさっさとやる！

黒晴明 はい！（白晴明）怖いな、この子。

みさと やっちゃんと道満はタカ兄を安全な場所に移動させたら合流

法師・八葉 オウケー！

みさと 牡丹、やるう。これを書り切れば明日が来る！

牡丹 うん、明日を頑張るために！

鬼童子 相談はすんだのかい？ こうしている間にも奥から怨みの言葉が聞こえてくるよ。

みさと じゃあいくわよ、明日本気を出すために、

一同 今を必死に！

戦闘

白晴明 八葉を仲介して力をこっちに注いでくれ、出力はこっちが調整する。

黒晴明 ああ、こうか？

八葉 合体陰陽をくらえ！

合体技が鬼童子に一矢報いる

黒晴明 出来るものだな

白晴明 OK、さすがボク！

牡丹 遊んでる場合じゃないわよ 時間がない！

黒晴明 それに気のせいか奴の力が強大になってきている

法師 おそらく奥から湧き出ている怨霊が力を貸しているんでしょう

八葉 このままだとギリ貧だよ どうするダンナ！

白晴明 そうだね よし 八葉と道満クンで動きを封じて ボクらで防御をこじ開ける そしてみさとクンと牡丹 頼んだ！

みさと・牡丹 うん(はい)！

鬼童子 さあ もう少しだ 消える消える！

戦闘再開

八葉 道満のダンナ、今だ！

法師 はい。汝 その歩みを禁ず！

白晴明 今度はこっちだ！

黒晴明 ああ！

白黒 白虎の門 放たれし槍 司るは突破！

鬼童子 この……！

白晴明 二人とも 今だ！

みさと あたし 牡丹のこと忘れない！

牡丹 ええ あなたの明日にあたしはきつという！

みさと・牡丹 いっけー！

放った矢が鬼童子を捕らえ 鬼童子は倒れる

みさと やったー！

八葉 やったよ みさっちゃーん！

牡丹 喜んでる場合じゃないわ 早く奥に！

法師 そうですね 行きましょう！

奥に進もうとした法師を起き上がった鬼童子が斬る

白晴明 道満クン！

法師 今は妖怪の体ですから これくらいなら大丈夫です。

みさと どういうこと？ 倒したのに。

黒晴明 遅かったのだ。奥からどす黒い念が這い出してきている。それがあいつの体を起こした。

八葉 来る！

黒晴明 どうする？ これ以上は……。

鬼童子 まだだよ。僕はまだ立っていられる。この世界を全て壊すんだ。人間も妖怪も全て消えてしまえば僕はもう……寂しくはないんだ。

みさと ……寂しくはない？

歌声が聞こえてきて 名無登場

牡丹 あれは……。

みさと 名無さん！

白晴明 え 何故……貴女が？

みさと 晴明 名無さん知ってるの？

白晴明 知ってるも何も……。

白黒 ……母上。

みさと 母上？

貴之 晴明の母上……妖狐葛の葉？

名無 ここにいたのね ずっと探してたのよ。

鬼童子 ……母上！

母子抱き合う。

鬼童子 母上 会いたかった。ずっと会いたかった！

名無 私も会いたかった。でも会えなかった。ごめんなさいね。

鬼童子 ううん こうして会えた。でも……まだどこか行ってしまうのですか？

名無 いいえ 今度はずっといられるね ずっと。

鬼童子 そうか よかった。

黒晴明 どうやら我は勘違いをしていたようだ

白晴明 勘違い？

黒晴明 あれは、鬼童子は世を呪いし我らではない。母を求め、泣いていた頃の我らだ。

みさと 名無 いや葛の葉さん、聞きたいこととか沢山あるんだけど、今からあたし達奥行くから、このままだと京が、名無 わかってるね。私に任せて。

名無歌う。気配が静まっていく。

白晴明 怨霊の声が収まっていく。

黒晴明 怨霊の恨みの念が母上の歌で慰められているのか？

名無 ええ。でもこれは一時しのぎ。今から私は結界に行き、怨霊たちを鎮めます。そしたらその上から結界を張りなおしなさい。
牡丹 でもそんなことしたら、

名無 私はそこですっとこの子に子守唄を聞かせてあげるね。これまで歌って上げられなかった分、ただそれだけのことよ。
みさと それだけって、ずっと出られないのよ！

名無 そうよ。ずっとこの子といられるの。私にとってはそのほうが大事だね。

みさと そんな……。

八葉 みさっちゃん、気持ちはわかるよ。でも他に方法がない。

名無 じゃあ頼んだわよ。（白黒に）あなた達の孤独はこうやって連れて行くわ。だから大丈夫よね？

白晴明 ええ、もう坊やじゃなですから。

黒晴明 母上……。

名無 みさとちゃん、ぼたんちゃん、仲良くね。

牡丹 はい、ありがとう。

みさと ……あの、後悔してたことってこれですか？

名無 ええ。

みさと ならずとこうなるのを待っていたのですか？

名無 （微笑んで）さ、それはどうかしら？（鬼童子に）さあ、行きましょ。

鬼童子 どこに？

名無 いつまでも一緒にいられる場所よ？ 怖い？

鬼童子 ううん、母上と一緒にならどこでもいい！

名無 そう……。

一同に見送られながら母子は光の中に消えてく。暗転

未来へと還るみさと・貴之を囲む一同 牡丹・八葉と黒式神らが準備をしている

白晴明 みさとくん、キミにはいくら礼を言っても言い足りないよ

みさと 礼なんていい、自分達だけの問題じゃないって最初に言ったのは晴明じゃない。あたしは自分の時代のためにやったの。

白晴明 そうだったね。でももう一度言わせてくれ、グラツェ・ミリオネ（どうもありがとう）。

みさと 最後まで相変わらずだね。アハハ……。〔白黒を見て〕結局分かれたままだ。

白晴明 まあね。時間が経ちすぎたからかお互いの自我が確立してしまったみたいなんだ。こうなったらもう別人みたいなもんだよ。

みさと じゃあ根本的な問題は解決してないんだね

黒晴明 なに落ち込んだ顔をしている。『体が二つでも目的は一つ』、そういったのは貴様だろう？

みさと でもそれはあの時京を守るために

黒晴明 それをこれからも続ければいい、光と影になって。

みさと 光と影？

黒晴明 話し合ったのだ。白の晴明がこれまで通り人の世を守り、我が妖怪の上に君臨しその秩序を守ると。こやつらも力を貸してくれるというのでな。

狸達 その、サーセンでした！

みさと 完全に吸収される前でよかったね

傘差 あざっす、一時は敵だったのにそう言ってくれるなんて。

みさと いいよ、もう。でも阿波だっけ？ そこには帰らなくていいの？

首吊 京を混乱させた責任を少しでも取るうかなと。

赤殿中 命令されてきた手前、失敗して戻りづらいというものもあるし……。

白徳利 それに、都会に慣れたらもう戻れないな。

狸達 〔笑う〕

みさと 見も蓋もないなあ。

法師 僕も妖怪の一員として京を影から支えるよ。それが責任の取り方だと思っから。

みさと うん、元気でね。

白晴明 〔貴之に〕キミも巻き込んでしまってますまない。お詫びといっではなんだが、出来ることはさせて欲しい。

貴之 なら……（紙を出し）これを、紫式部という女性が書いたってことで世に広めて欲しい。

白晴明 いいけど、そんなのいいの？

みさと えっと、それが流行らないと歴史が狂っちゃうのよ、ね？

貴之 それだけじゃない。この物語が未来まで続く、それが彼女の生きた証なんだ。

みさと タカ兄……。

八葉 ダンナ、終わったよ。

白晴明 うん。じゃあキミ達を送るよ。時間はこっちに呼び出された直後だ。

八葉 みさっちゃん、元気でな。

みさと うん、やっちゃんも。

牡丹 みさと、お別れね。私、先生のところで修行をしておすことにしたの。この時代をあなたの時代へと繋ぐために。

みさと 受け取ってくるよ。そして今度はあたしが未来へと繋ぐんだ。牡丹がしてくれたように。

牡丹 うん。……もっと未来のこと聞きたかったけど、さよなら。

みさと さよならじゃないよ、また明日。

牡丹 ……また明日。

白晴明 じゃあ始めよう。みんな力を貸して。

術が始まる。

白晴明 日は昇り、日は沈む、変わらぬ理（ことわり）

黒晴明 春は終わり、また春は来る、変わらぬ因果

法師 行くものは帰り、帰りしものはまた行く、変わらぬ性（さが）

牡丹 世界は移ろい、そして世界は戻る、ならば

陰陽師達 呼ばれ者、今こそ還れ！

術が発動する。

牡丹 みさと、最後に教えてあげる。私の家の名前、宮守っていうのよ！

みさと え、それってちょっと……。

暗転

明かりがつくと 元の神社

みさと いたたた……ここは ねえタカ兄起きて！

貴之 ン ……ここ？

みさと うん ここ最初にいた神社よ

貴之 戻ってきたのか

みさと 晴明 あたしたちが呼ばれた直後に還すって言ってたね

貴之 ああ 直前までいた俺達と入れ違いってわけだ

みさと 長いこと向こうにいたのにここでは一瞬しか経ってないのね

貴之 そうだな あれもこれもたったの一瞬だ

みさと ねえ タカ兄……その

貴之 もしかして 気を使おうとしてるか？

みさと ……うん ねえ タカ兄とあのゆかりって妖怪……

貴之 お子様はそんなこと気にしないでいいよ

みさと 気にするよ 心配してたのはパパだけじゃない あたしだって心配してたんだから

貴之 ……ありがとう でもまあ気にするな たった一瞬で会えるはずのない相手と出会い別れたってだけ 大したことじゃないよ

みさと それだって十分大したことだよ ……ああ！

貴之 今度は何だ？

みさと ……弓 置いてきちゃった！

貴之 牡丹って子が使うからって渡したんだろ？ そーいや あの子って俺達のご先祖になるのか？

みさと それも十分びっくりだけど それよりここに弓がなかったら面倒なことになるんじゃないの？

貴之 え？

みさと だーかーらー、ご神体の弓がここじゃない そしてここにはあたし達しかない わかる！

貴之 ……あー！ みさと どうしよう！

みさと 何か代わりになるもの持ってない？

貴之 探そう！

二人探すが当然ない。

みさと　　って、あるわけじゃない！　タカ兄どうする？　こんなところ見られたら……。？　こんなところ見られたら、　ってどうしました？

神主登場

神主　宮守さん　何か問題でもありましたか？　！　あれーご神体の弓がないじゃないですか？　一体誰が？　　ってここにはあなた達しか入ってない。動かないで　犯人はこの中にいる！　犯人は……。

みさと・貴之　（じとー）

神主　……どうしました？

みさと　　やっちゃん

神主　（以下八葉）　……どうも　やっちゃんです。

みさと　　どうして？　今二十一世紀だよ？

八葉　俺式神だよ？　霊力さえもらえれば寿命関係ないじゃん？　　白のダンナが亡くなるときに黒のダンナに俺を譲ったんだよ　だからこうして今もいる

みさと　　ってことは　黒の晴明ってまだ生きてるの？

八葉　道満と奥で待ってるよ。俺達は迎えに来たんだ。　おーい！

狸達登場　巫女や神主の格好

狸達　みさとさん　貴之さん　ちーっす！

みさと　　やっちゃんといいその格好　この神社ってみんなが管理してるの？

八葉　ザツツライト！

貴之　もしかして俺達が今日平安時代に飛ぶようにこの神社を作った。そして今まで調査を断ってたのも　全部この日のため？　一同　ザツツライト！

八葉　あんたが古本屋で見つけたっていう資料　書いたの俺

貴之　なんですとー？

みさと　　ってことは全部みんなの手のひらの上で転がされてたってこと？

八葉　それはないよ。俺らは全部きっかけを作っただけ。俺達を救ってくれたのはあくまでみさっちやんの意思だ。今日のこの日はみさっちやんが勝ち取った明日だよ。さあ、積もる話は奥でだ。牡丹から手紙も預かってるしね。

みさと　　牡丹から手紙？　それを早く言いなさいよ！

八葉　ちよっと、みさっちゃん！

みさとを追って八葉と狸退場
貴之も追って去るうとするが、目の前に洋服を着たゆかりがいる

ゆかり　（微笑む）

貴之　……（素通りする）

ゆかり　待て、なんで素通りする？

貴之　いやいや、それはない！　人間に転生して現代で再会でも出来すぎなのに、死んだ本人と再会なんてないだろ？

ゆかり　なんだ、死んで欲しかったのか？

貴之　そうじゃないけど、え……本物？　あの時死んだのに？

ゆかり　あの体はな、気がついたら私は一匹の蜘蛛だった。そして獲物を食らい、朝露を吸い、少しずつ力を取り戻して千年かけてここまで戻った。

貴之　千年かけて……でもどうして？

ゆかり　今日この日平安時代から帰ってきたお前に会うため、それでは納得できないか？

貴之　ゆかり……。

ゆかり　なんだその顔は？　それより、私に何か言うことはないのか？

貴之　その……ごめん、待った？

ゆかり　（微笑んで）ううん、今来たところ。

抱き合う二人。

—幕—